

古代インド①



解説動画



▲インダス文字の印章

前2300- ¹ _____ 文明: ² _____ 人?
 : 水道、沐浴場。印章の¹ _____ 文字は未解読。
 ・中流の³ _____、下流の⁴ _____ 遺跡、
 ・沿海部ドーラヴィーラ遺跡の大規模な貯水池。

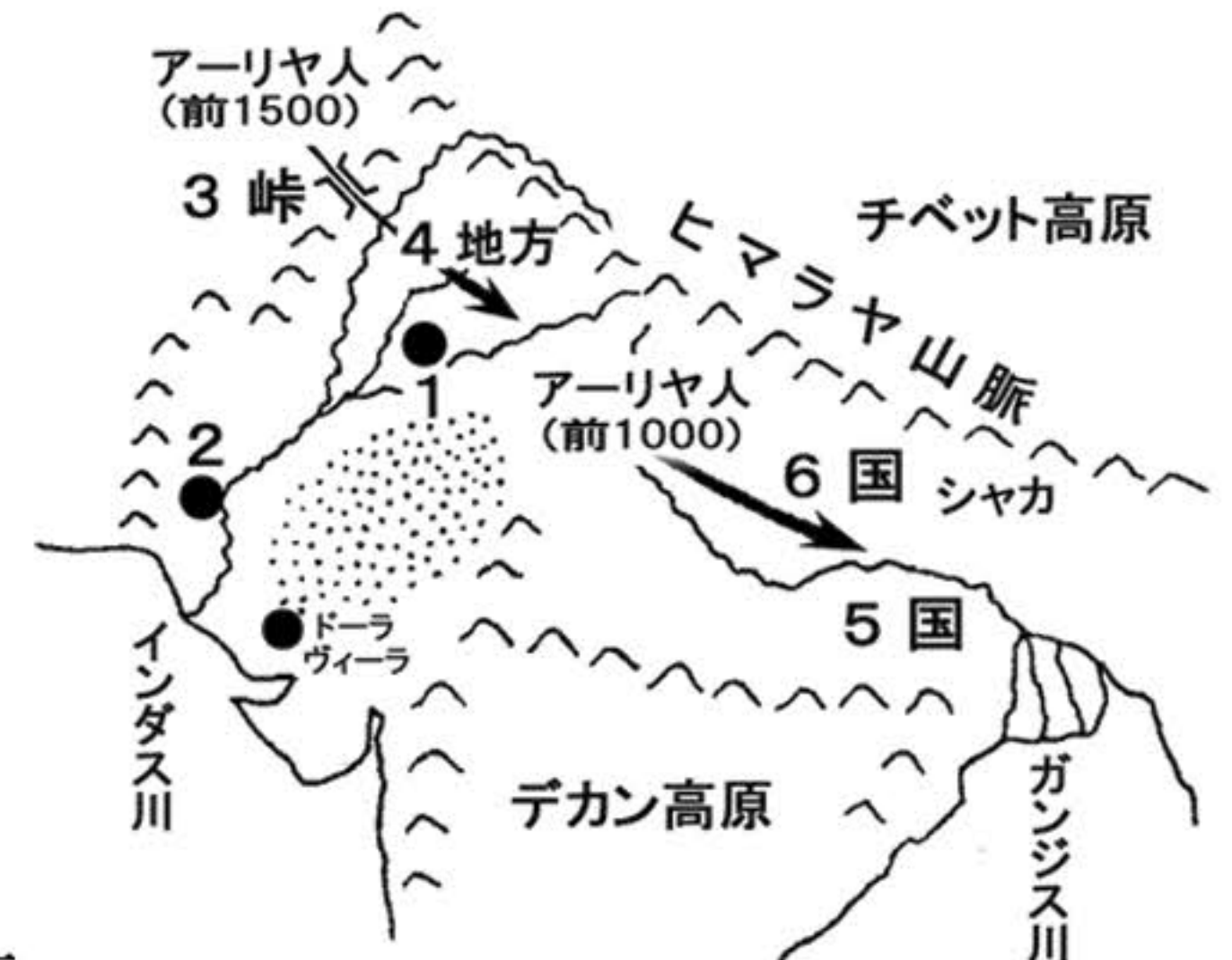
前1500- 印欧系⁵ _____ 人がカイバル峠を經由して、
 北西インドの⁶ _____ 地方へ侵入。

前1000 ⁷ _____ 川流域へ侵入。鉄器時代始まる。

☆⁸ _____ 教: 自然崇拜の多神教。複雑な儀式。
 『⁹ _____』が最古の聖典。

☆四つの種姓(¹⁰ _____) : カースト制(ジャーティ)の起源。

- ・司祭(¹¹ _____) ・貴族(¹² _____)
- ・庶民(¹³ _____) ・奴隷(¹⁴ _____)



- 1 ハラッパー 2 モエンジョ=ダーロ
- 3 カイバル 4 パンジャーブ
- 5 マガダ 6 コーサラ

前7c- 十六王国時代: ¹⁵ _____ 国・ _____ 国が抗争を繰り返す戦乱の時代。

⇒クシャトリヤ、ヴァイシャが台頭。バラモン教批判から宗教改革運動へ。

①¹⁶ _____ 哲学: 梵我一如(ブラフマンとアートマンは一体)。輪廻転生からの解脱を説く。

②ジャイナ教: 教祖¹⁷ _____。徹底的な不殺生と禁欲主義。カースト否定。

③仏教: 教祖¹⁸ _____ (釈迦牟尼=シャカ族の聖者/仏陀=悟った者)。

ブッダガヤで悟り。生病老死の四苦の原因を、克服する(四諦・八正道)。

前5c マガダ国がコーサラ国を併合。マガダ王ビンビサーラが仏教を保護。

前4c アレクサンドロス大王の東方遠征軍が侵入。

前317- ¹⁹ _____ 朝(首都: ²⁰ _____)。

- ・²¹ _____ : マガダ国のナンダ朝を倒す。

セレウコス朝から4州を奪う。☆メガステネス『インド志』

- ・²² _____ 王: 第3代。阿育王。

カリンガ征服の戦禍から仏教に帰依。

磨崖碑・石柱碑で法(²³ _____)の支配を宣言。

☆第3回²⁴ _____ : 仏教の経典編集。パーリ語。

☆²⁵ _____ 仏教: 修行者個人の救済が目的。

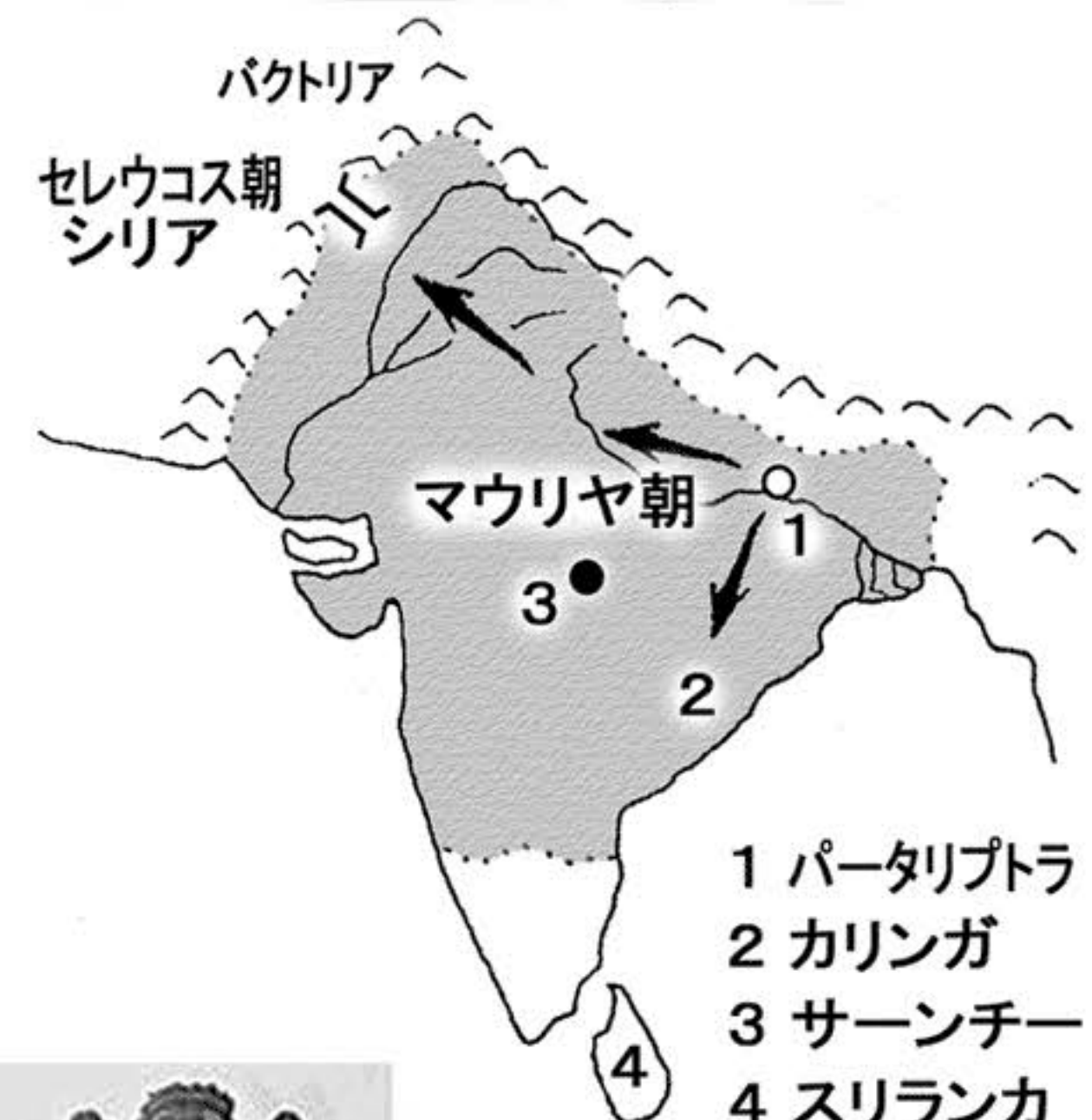
⇒²⁶ _____ ・ビルマ・タイへ南伝。

☆ストゥーパ: 仏陀の遺骨を納めて崇拜する仏塔。

⇒²⁶ _____ の仏教遺跡が最古。

☆ゼロの観念: 数字とともにインド数学を発展させる。

⇒9c イスラム世界(アラビア数字) ⇒13c 西欧に伝来。



- 1 パーティプトラ
- 2 カリンガ
- 3 サーンチー
- 4 スリランカ

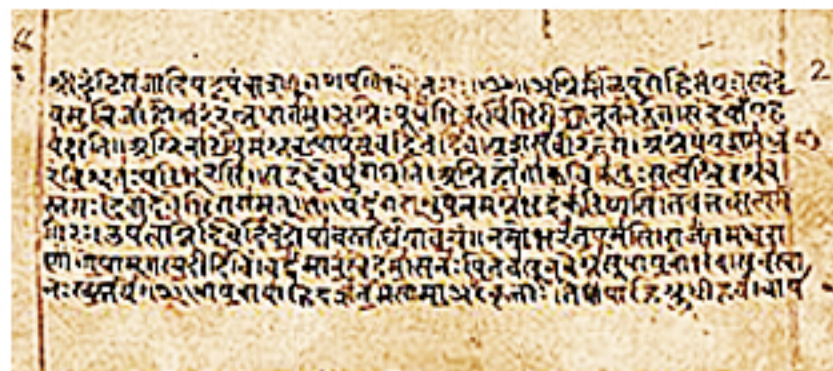


▲アショーカ王の石柱碑



▲サーンチーの仏塔(ストゥーパ)

インドの宗教



『ヴェーダ』は、^{サンヒター}本集・^{ウパニシャッド}祭儀書・森林書・奥義書の4部構成で、
 ◀本集には、リグ、サーマ、ヤジュル、アタルヴァの4種がある。
 最古の『³_____』は前1000年までに成立。
 サンスクリット語で記されている。

☆⁴_____ (種姓) …4大身分。
 1 _____ …祭司階級。最高権威。
 5 _____ …貴族・戦士階級。
 6 _____ …庶民(商工業者・農民)。
 7 _____ …奴隷化された先住民。のち農民に拡大。
 ※不可触賤民…^{とさつ}屠殺・皮革業者など。4ヴァルナに含まず。
 ※ジャーティー…ヴァルナを職業ごとに細分化したもの。
 (カースト)

⁸ _____ **哲学**
 ・『ヴェーダ』の宇宙哲学。
 ・^{ほんが いちによ げだつ}梵我一如と解脱を説く。

9 _____ (梵) …宇宙の根本。魂の源。
 10 _____ (我) …個々の魂。
 11 _____ …魂が生まれ変わりを繰り返す。
 12 _____ …魂が輪廻を脱し、宇宙に帰る。

¹³ _____ **教**
 ・開祖⁴_____。
 ・厳しい不殺生と禁欲(断食)。
 ・ヴァイシャ(商工業者)が支持。

仏教(Buddhism)
 ・開祖¹⁵_____ (仏陀)
 ・苦の原因を知り(^{したい}四諦)、
 克服する方法(^{はっしょうどう}八正道)を説く。
 ・クシャトリヤ(貴族)が主に支持。

¹⁶ _____ **教**
 ・バラモン教を母体として、
 さまざまな多神教が融合。
 ・シヴァ神、ヴィシュヌ神など。
 ・聖典『マヌ法典』
 ・叙事詩『マハーバーラタ』、
 『ラーマヤナ』



◀^{しよてんぽうりん}初転法輪。
 ガウタマは苦行の後、
 サルナート(鹿野苑)で
 5人の修行者に対して
 最初の説法を行なった。

1 バラモン 2 ヴェーダ 3 リグ=ヴェーダ 4 ヴァルナ 5 クシャトリヤ 6 ヴァイシャ
 7 シュードラ 8 ウパニシャッド 9 ブラフマン 10 アートマン 11 ^{りんね}輪廻 12 ^{げだつ}解脱
 13 ジャイナ 14 ヴァルダマーナ 15 ガウタマ=シッダールタ 16 ヒンドゥー

古代インド①

1 インダス 2 ドラヴィダ 3 ハラッパー 4 モエンジョ=ダーロ 5 アーリヤ 6 パンジャーブ
 7 ガンジス 8 バラモン 9 リグ=ヴェーダ 10 ヴァルナ 11 バラモン 12 クシャトリヤ
 13 ヴァイシャ 14 シュードラ 15 マガダ・コーサラ 16 ウパニシャッド 17 ヴァルダマーナ
 18 ガウタマ=シッダールタ 19 マウリヤ 20 パータリプトラ 21 チャンドラグプタ
 22 アショーカ 23 ダルマ 24 仏典結集 25 上座部 26 スリランカ(セイロン) 27 サーンチー



解説動画

古代インド②

☆中央アジア～北西インド。

☆デカン高原：ドラヴィダ人。

前3c ³ 王国：東方遠征の残留判官人。

⇒北西インドへ侵入（⇒ガンダーラ美術）。

前2c- イラン系遊牧民⁴（大夏）が建国。

前1c- 匈奴に追われた遊牧民⁵が建国。

前1c- ¹ 朝

（アーンドラ王国。都：プラティシュターナ）

・ローマとの² 貿易。

（⇒『エリュトラリア海案内記』の記録）

後1c- ⁶ 朝（都：⁷）

・イラン系遊牧民が、大月氏の支配から独立。

・⁸ 王：3代。第4回仏典結集。

（最後の結集。サンスクリット語）

☆⁹ 美術：最初の仏像。ギリシア風。

☆¹⁰ 仏教：修行者（¹²）を信仰。

⇒在家信者を含めた万人救済を目指す。

⇒¹²（竜樹）が『中論』で大成。

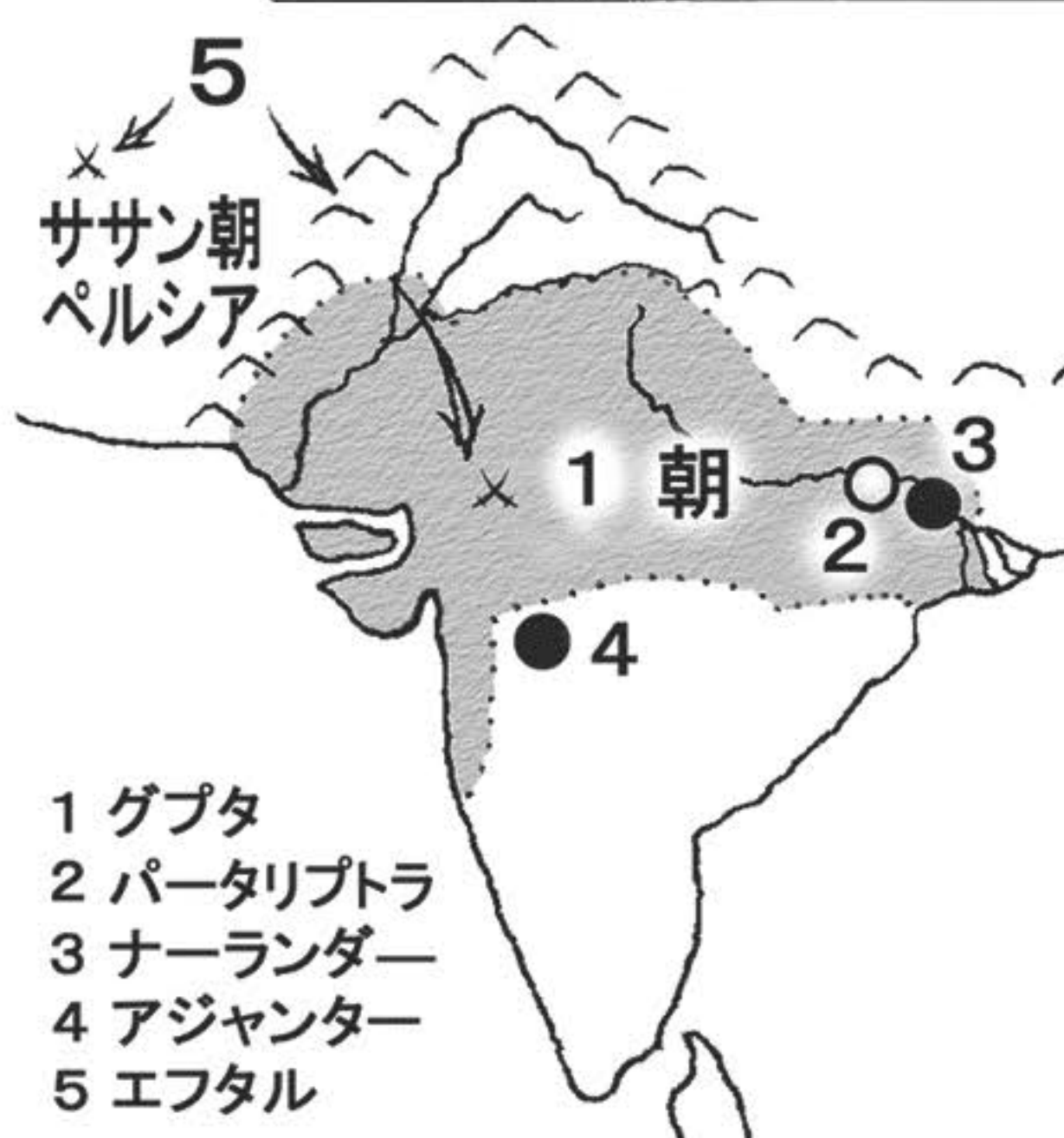
⇒中央アジア・中国・朝鮮半島・日本へ北伝。

後3c ササン朝のシャープール1世に征服される。



インド洋のダウ船

- 1 クシャーナ
- 2 プルシャプラ
- 3 サータヴァーハナ



- 1 グプタ
- 2 パーティプトラ
- 3 ナーランダー
- 4 アジャンター
- 5 エフタル



▲アジャンター石窟の菩薩像

320-550頃 ¹³ 朝（都：¹⁴ = 華氏城）

・¹⁵ : 建国者。北インドを統一。

・¹⁶ : 第3代。超日王。

東晋の¹⁷ が留学。☆¹⁸ 僧院創設。

☆グプタ美術：純インド風の¹⁹ 石窟寺院。

（⇒日本の法隆寺金堂壁画に影響）

☆²⁰ 語（インド古典語）の文学。

・宮廷詩人²¹ の恋愛悲劇『シャクンタラー』

・二大叙事詩『²²』『²³』。

☆²³ 教：秩序神²⁴ と破壊神²⁵。

☆『²⁶ 法典』：四姓に基づく生活規範と法の集大成。

6c- イラン系遊牧民²⁷（白匈奴）の侵入で滅亡。

606-647 ²⁸ 朝（都：²⁹ = 曲女城）

・³⁰ : 戒日王。古代最後の統一者。

ナーランダー僧院に、唐の僧³¹ が留学。

647 王の死後、王国は崩壊⇒ 500年間の分裂時代（ラージャート時代）。

仏教とヒンドゥー教

	仏教	ヒンドゥー教
成立	十六大国時代(前5c頃)、シャカ族の王子 1 _____ (仏陀)が開く。	教祖は特定できない。 紀元前後〜グプタ朝(4c)までに成立。
経典	・上座部仏典(パーリ語) 『経蔵』(仏陀の教え)、『律蔵』(戒律) 『論蔵』(注釈書)。 ・大乘仏典(2 _____ 語) 3 _____ が漢訳(般若経・法華経) ・4 _____ (竜樹)の 『中論』…空の思想。	・『ヴェーダ』、『ウパニシャッド』 ・『7 _____』…身分ごとの義務。 ・『バガヴァッド=ギーター』 (『マハーヴァーラタ』の一部) …戦場に赴く途中、悩むアルジュナ王子 に、御者のクリシュナ(実はヴィシュヌ神の 化身)が、貴族の義務を説く。
思想	・現世の否定。世界は実在しない(色即空)。 ・身分制度(ヴァルナ)の否定。 ・現世への執着を捨てる(四諦八正道)。	・現世を肯定。現世利益を認める。 ・身分制度を肯定、身分ごとの義務を説く。 ・祭式、知識、神への信愛(8 _____)。
崇拜対象	・仏陀(ブッダ)…悟りを得た後のガウタマ。 ・5 _____ …万人救済を目指す修行者。 悟りを得る前のガウタマ、あるいは仏陀の弟子 (弥勒、阿彌陀、観音…)	・太陽神、秩序の神 9 _____ ・嵐の神、破壊の神 10 _____ ・創造神ブラフマー、シヴァの息子ガネーシャ、 シヴァの妃パールヴァティーなど無数。
支持基盤	・王侯貴族に手厚く保護され、民衆から遊離。 ・グプタ朝の 6 _____ 僧院。 ・パーラ朝のもとでヒンドゥー教と融合(⇒密教) ・ゴール朝の侵攻で寺院を破壊され、衰退。	・民間信仰として庶民(ヴァイシャ)に広まる。 ・王朝交代に関わらず、信仰を維持する。 ⇒イスラーム王朝の支配下でも生き残る。

1 ガウタマ=シッダールタ 2 サンスクリット 3 鳩摩羅什(くまらじゅう) 4 ナーガー=ルジュナ
5 菩薩(ぼさつ) 6 ナーランダー 7 マヌ法典 8 バクティ 9 ヴィシュヌ 10 シヴァ

ヒンドゥーの神々



ヴィシュヌ神

太陽神、秩序維持の神。
無数の化身として出現する。
(ラーマ、クリシュナ、仏陀…)



ブラフマー神

宇宙の創造神。
『ウパニシャッド』の
ブラフマンを人格化。
4つの顔を持つ。



宇宙

ブラフマーが覚醒すると宇宙が生まれ、
43億2千万年続く。ブラフマーが眠ると
宇宙は消え、43億2千万年存在しない。
これを100回(311兆4千億年)繰り返す。



シヴァ神

暴風神、破壊神。
青い肌、首に蛇。
額には、第3の目。
頭上からガンジス
川が流れ出る。



ガネーシャ神

シヴァの息子。
富と繁栄の神。
ゾウの頭を持つ。

古代インド②

- 1 サータヴァーハナ
- 2 季節風
- 3 バクトリア
- 4 トハラ
- 5 大月氏
- 6 クシャーナ
- 7 プルシャブラ
- 8 カニシカ
- 9 ガンダーラ
- 10 大乘
- 11 菩薩
- 12 ナーガールジュナ
- 13 グプタ
- 14 パーティプトラ
- 15 チャンドラグプタ1世
- 16 チャンドラグプタ2世
- 17 法顕
- 18 アジャンター
- 19 アジャンター
- 20 サンスクリット
- 21 カーリダーサ
- 22 マハーバーラタ・ラーマヤナ
- 23 ヒンドゥー
- 24 ヴィシュヌ
- 25 シヴァ
- 26 マヌ
- 27 エフタル
- 28 ヴァルダナ
- 29 カナウジ
- 30 ハルシャ=ヴァルダナ
- 31 玄奘

イスラーム用語の基礎知識

ア ッ ラ ー	唯一神ヤハウェ。神の名を唱えてはならず、普通名詞の「神(アッラー)」で代用。
1	イスラーム教徒。「帰依する者」。改宗には証人2名の前で信仰告白(注1)を行う。
2	異教からイスラームへの改宗者。アッバース朝でムスリムとの平等が実現。
3	異教徒。啓典の民(ユダヤ・キリスト教徒)と多神教徒。
4	聖遷。西暦 622 年、イスラーム暦元年、ムハンマドのメディナ移住。
5	イスラーム共同体。内部では、人種・民族を超えて平等が保証される。
6	聖戦。ウンマを防衛し、拡大するための異教徒との戦争。
ムジャヒディーン	聖戦士。ジハードに従軍する者。戦死者の魂は、天国へ迎えられる。
預言者(使徒)	神の啓示を伝える者。モーセら旧約の預言者たち、イエス、ムハンマド。
7	ムハンマドの代理人、後継者。ウンマの指導者。アッバース朝で神格化。
8	シーア派の指導者。ムハンマドの従弟・娘婿アリーの直系の子孫。
9	総督・軍司令官。ブワイフ朝の君主はカリフから大アミールに任命された。
10	世俗君主。セルジューク朝君主がカリフから任命され、歴代王朝が継承。
11	トルコ人奴隷。騎兵に採用。原義は「白人奴隷」⇔ザンジュ(黒人奴隷)。
12	イスラームの聖典。ムハンマドに下った神の啓示を記録。
13	イスラーム法。神が定めた法。飲酒の禁止など。『コーラン』に記載。
14	ムハンマドの言行。シャリーアを補う慣習法。伝承(ハディース)に記載。
15	法学者・裁判官。シャリーア・スンナを現実的に解釈し、判決を下す。
16	学院・大学。モスク(礼拝堂)に併設され、ウラマーを養成する。
17	人頭税。ウマイヤ朝までは非アラブ人、アッバース朝以後は異教徒に課す。
18	地稅。ウマイヤ朝までは非アラブ人、アッバース朝以後は全土地所有者に課す。
六 信	6つの信仰対象。神・天使・啓典・預言者(使徒)・来世・定命(天命)。
五 行	5つの戒律。信仰告白(注1)・礼拝(注2)・喜捨(注3)・断食(注4)・巡礼(注5)。

- (注1)信仰告白…「アッラー以外に神はなし(ラー・イラーハ・イッラッラー)
- ムハンマドは神の使徒なり(ムハンマド・ラスールッラー)」と唱える。
- (注2)礼拝…1日に5回、メッカのカーバ神殿に向かって祈る。金曜日にはモスクで集団礼拝を行う。
- (注3)喜捨…個人的寄付のほか、資産の10%程度を徴収される。これを救貧税(ザカート)という。
- (注4)断食…ヒジュラ暦第9月(ラマダン月)の1ヵ月間、日の出から日没まで一切の飲食・喫煙を禁じる。
- (注5)巡礼…ヒジュラ暦第12月に、聖地メッカに巡礼。カーバ神殿の周りを、反時計回りに7回まわる。



サウジアラビア国旗
剣の上のアラビア文字は信仰告白

(解答)

1 ムスリム 2 マワーリー 3 ジンミー 4 ヒジュラ 5 ウンマ 6 ジハード

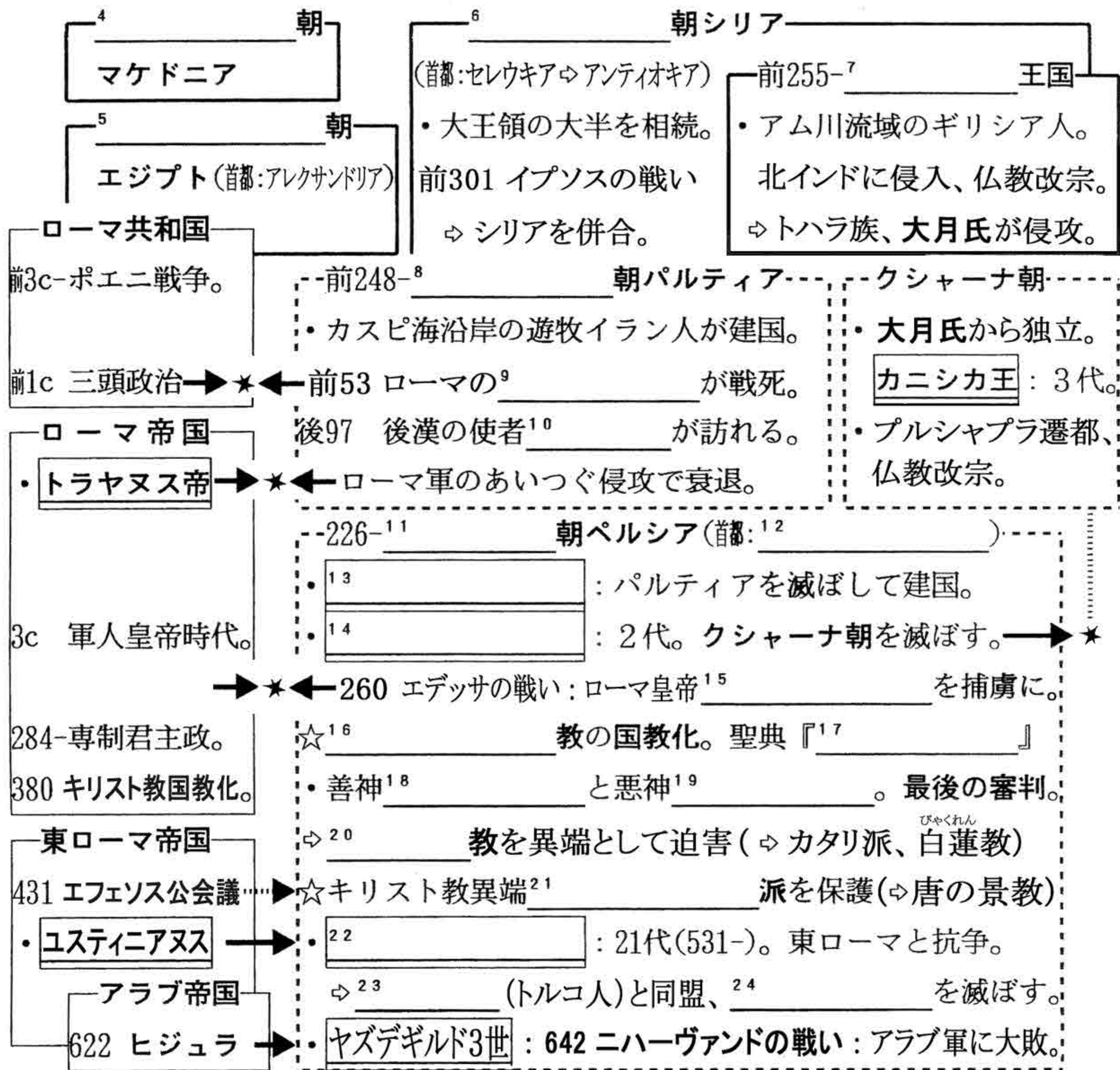
7 カリフ 8 イマーム 9 アミール 10 スルタン 11 マムルーク 12 コーラン

13 シャリーア 14 スンナ 15 ウラマー 16 マドラサ 17 ジズヤ 18 ハラージュ

パルティアとササン朝ペルシア

前334-¹ _____ 大王の東方遠征⇨イッソスの戦い⇨アルベラの戦い
 ⇨² _____ 朝滅亡（前330）⇨前323-³ _____ （後継者）の抗争。

☆ヘレニズム時代（前334-前30）：ギリシア文化とオリエント文化の融合。



- 1 アレクサンドロス 2 アケメネス
- 3 ディアドコイ 4 アンティゴノス
- 5 プトレマイオス 6 セレウコス
- 7 バクトリア 8 アルサケス
- 9 クラッス 10 甘英 11 ササン
- 12 クテシフォン 13 アルデシール1世
- 14 シャープール1世 15 ウァレリアヌス
- 16 ゾロアスター 17 アヴェスター
- 18 アフラ=マズダ 19 アーリマン 20 マニ
- 21 ネストリウス 22 ホスロー1世 23 突厥 24 エフタル



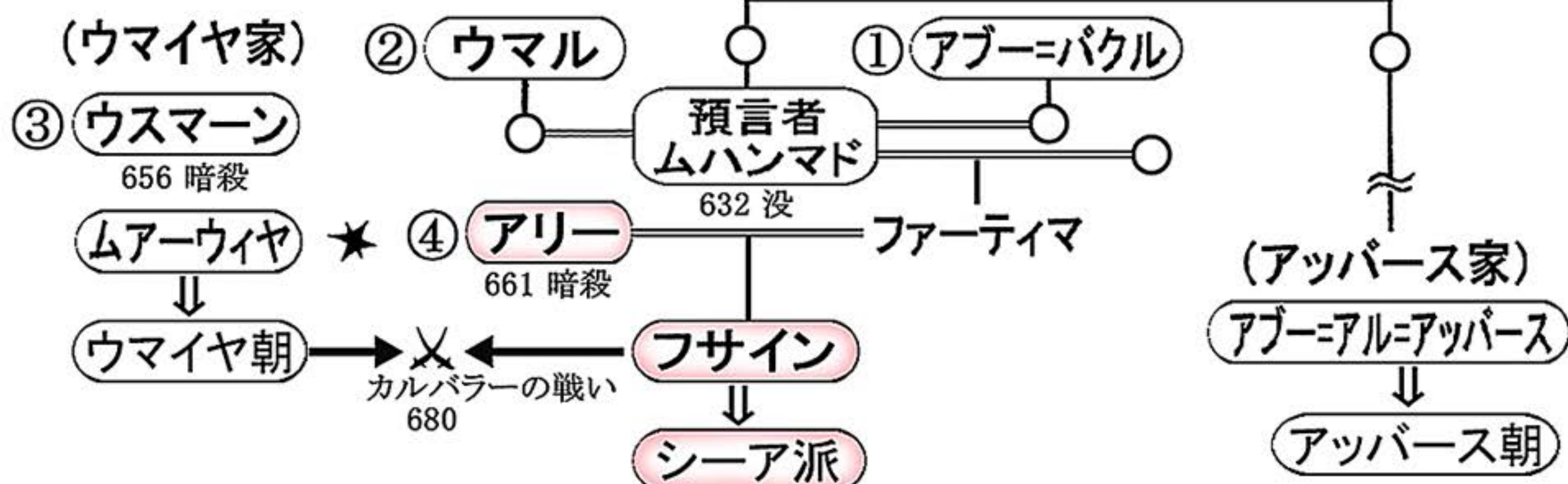
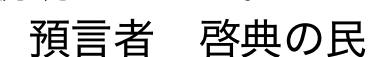
メディア



A black and white photograph of the Colosseum in Rome. The image shows the massive, tiered structure of the amphitheater, with significant portions of the outer wall missing, revealing the internal arches. Scaffolding is visible around the base and sides of the ruins, indicating ongoing restoration work. The sky is clear and bright.

あ アケメネス朝ペルシア
い セレウコス朝シリア
う アルサケス朝パルティア
え ササン朝ペルシア
お エフタル
① シャープール1世
② ホスロー1世

ユスティニアヌス 突厥



アリーを後継者に指名する
ムハンマド（イランの教科書）

イスラーム帝国の成立

・ムハンマド：メッカの¹_____族ハーシム家。預言者と称し、六信五行を説く。

622 聖遷（²_____）：メッカから³_____へ移住⇒教団（⁴_____）成立。

630 メッカ占領⇒⁵_____神殿の多神教の偶像を破壊。唯一神アッラーの神殿に。

・アブー＝バクル：初代カリフ（後継者）として選出（632-⁶_____時代）。

・⁷_____：2代。642 ⁸_____の戦い：ササン朝を破り、イランを征服。
⇒東ローマに対する^{ジハード}聖戦。シリア・エジプト征服。各地に軍営都市（ミスル）建設。

・ウスマーン：3代。ウマイヤ家。聖典『⁹_____』完成（650頃）。暗殺される。

・¹⁰_____：4代。ムハンマドの娘婿。ウマイヤ家と対立。暗殺される（661）。
^{イマーム}

⇒アリー家を指導者とする¹¹_____派と、全カリフを認める¹²_____派が抗争。

661-¹³_____朝（首都：シリアの¹⁴_____）

・¹⁵_____：カリフ世襲制の最初。680 カルバラの戦い：アリー家のフサイン戦死。

・アブド＝アルマリク：5代。アラビア語の公用語化。イェルサレムに岩のドームを建設。

・ワリード1世：イベリア半島のゲルマン人国家¹⁶_____王国を滅ぼす（711）

732 ¹⁷_____の戦い：フランク王国の宮宰カール＝マルテルに敗れる。

☆アラブ帝国：アラブ人に免税特権。異民族は改宗者（¹⁸_____）も差別される。

750-¹⁹_____朝（首都：イラクのクーファ⇒バグダード）

・²⁰_____：シーア派・改宗者と結び、ウマイヤ朝を打倒⇒シーア派弾圧。

☆イスラーム帝国：改宗者の人頭税（²¹_____）を免除、信徒間の平等を実現。!

751 ²²_____の戦い：唐の玄宗を破る⇒²³_____法伝来。

・マンスール：2代。ティグリス河畔に新都²⁴_____（平和の都）建設。
^{マディーナ＝アッサラーム}

756-²⁷_____朝

イベリア半島に建国。（首都：²⁸_____）

・アブド＝アッラフマーン3世

：8代。カリフと称す（926）

・²⁵_____：5代。全盛期。

⇒フランク王国のカール大帝の使者が訪問。

・マームーン：7代。²⁶_____を建設（830）

⇒ビザンツから入手したギリシア語文献をアラビア語訳。

ウマイヤ家の残党



▲ 岩のドーム

イェルサレム市内、「神殿の丘」に建設。
ムハンマドが昇天したという岩を囲む。
手前は、ユダヤ教の聖地「嘆きの壁」。
ローマ軍に破壊されたソロモン神殿の跡。

あ メディナ

い メッカ

う ニハーヴァンド

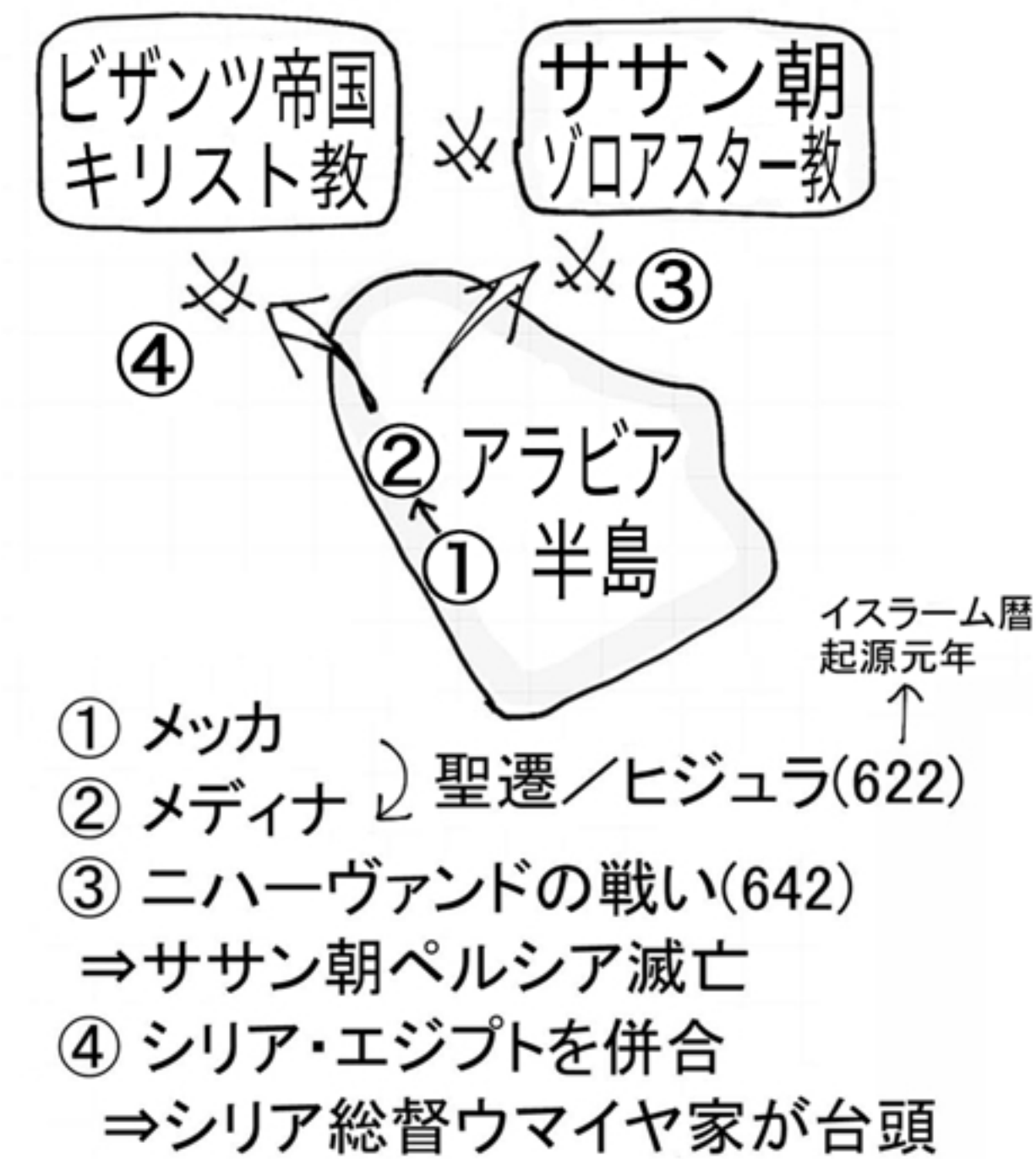
え ダマスクス

お 西ゴート

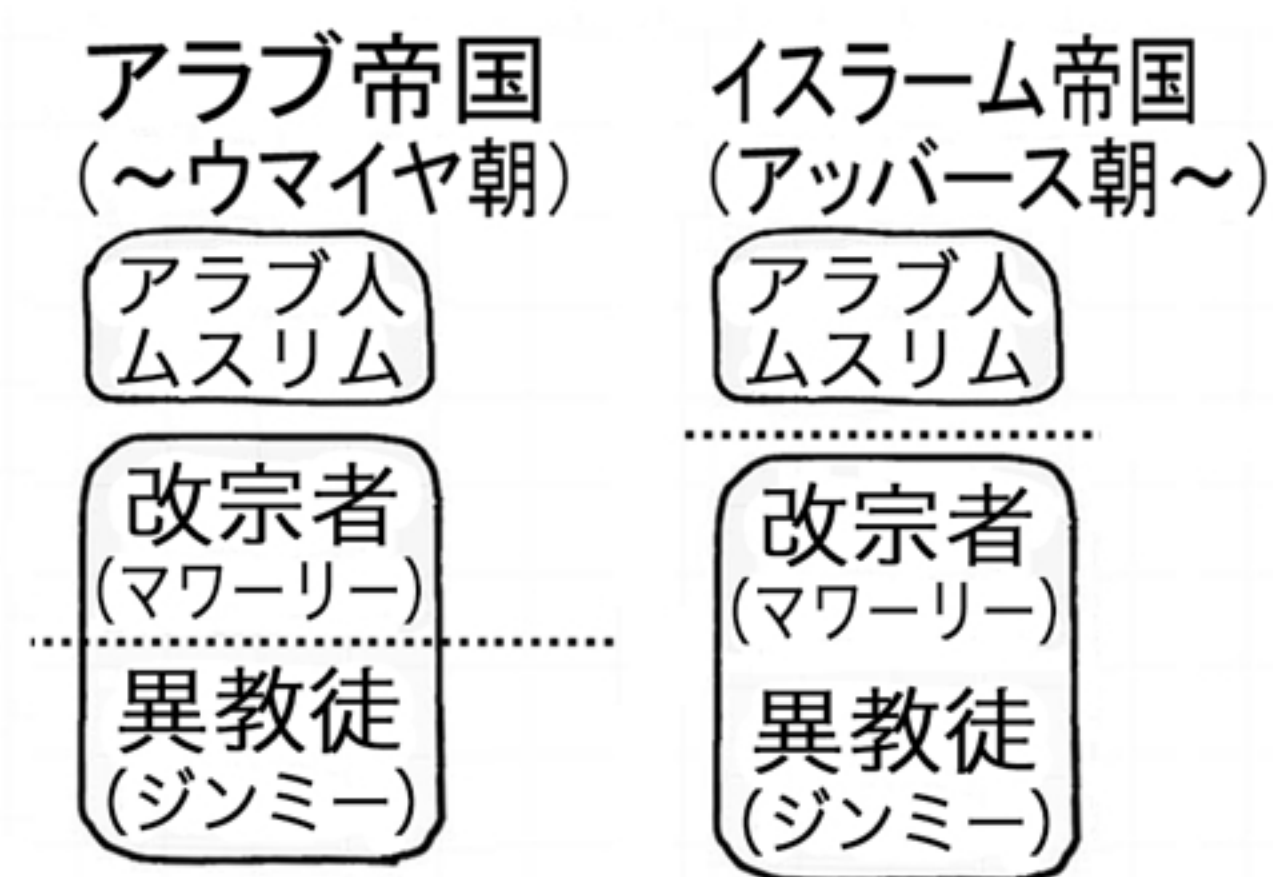
か バグダード

き タラス河畔

アラブ帝国の成立

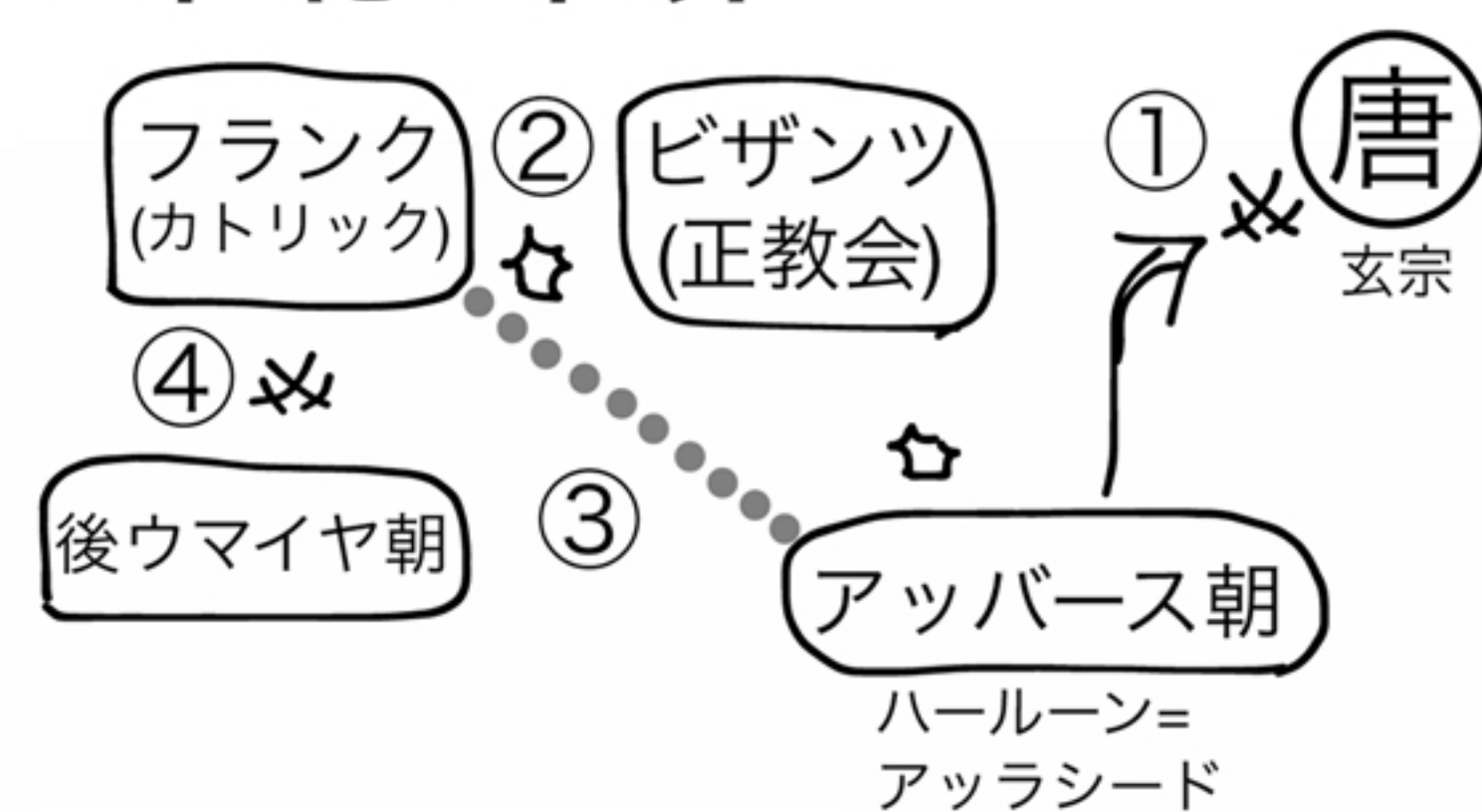


税制の変化



問 アッバース朝の税制
改革について、以下の語
句を用いて、150字以内
で説明しなさい。
マワーリー ハラージュ

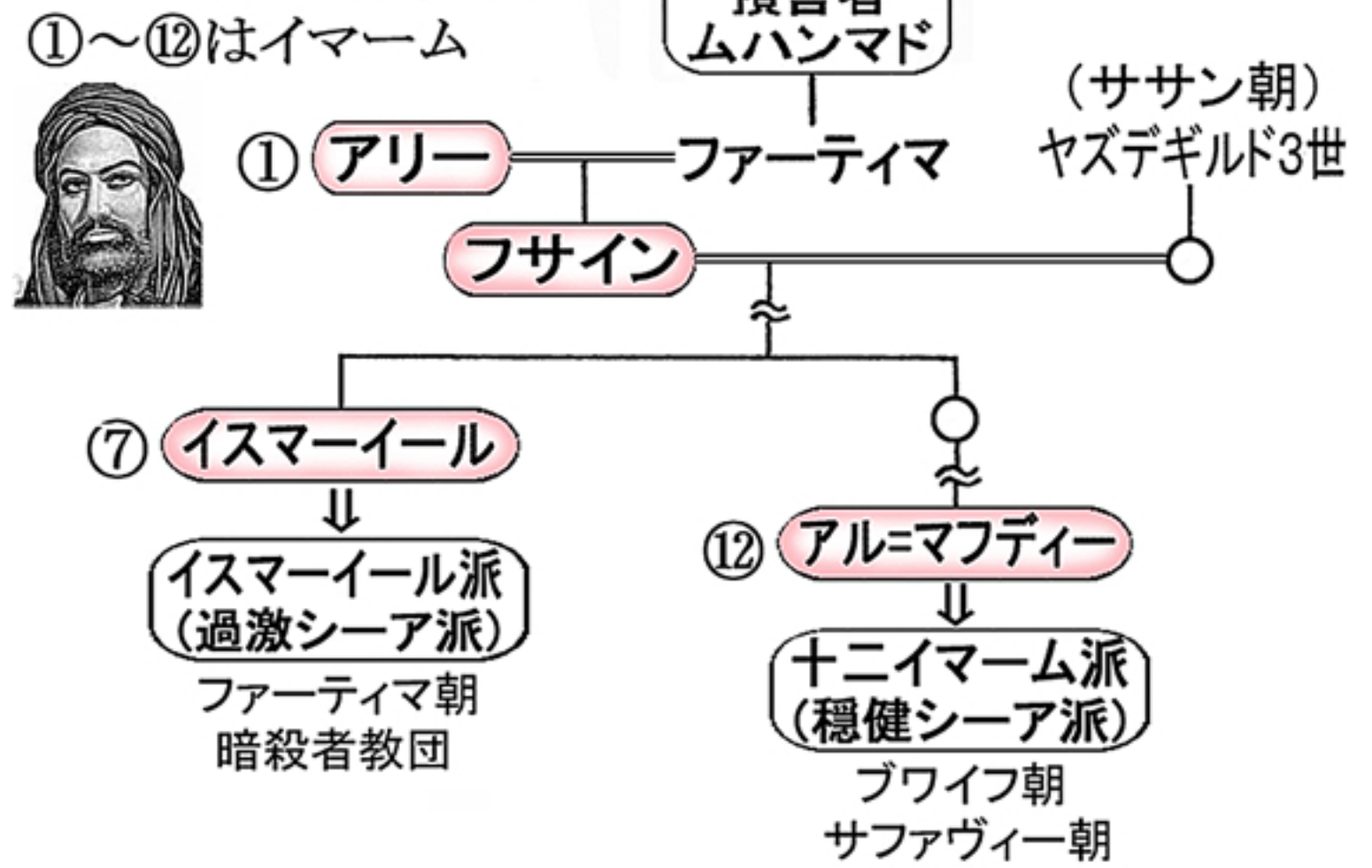
8世紀の世界



- ① タラス河畔の戦い(751)
② 東西教会の対立
③ カール大帝の使者
④ カール大帝のイベリア遠征

問 8世紀の地中海世界
について、以下の語句
を用いて、120字以内で
説明しなさい。
東西教会 イベリア遠征

シーア派系図



シーア派



スンナ派



問 シーア派の教義につ
いて、スンナ派との違
いを明確にして以下の
語句を用いて90字以内
で説明せよ。
血統 ウマイヤ朝

イベリア半島

後ウマイヤ朝

免税特権を！

イラン人
改宗者

シリア
ウマイヤ朝

シーア派

アッバース朝

反ウマイヤ同盟！

イスラーム帝国の成立

- 1 クライシュ 2 ヒジュラ 3 メディナ
4 ウンマ 5 カーバ 6 正統カリフ
7 ウマル 8 ニハーヴァンド 9 コーラン
10 アリー 11 シーア 12 スンナ 13 ウマイヤ
14 ダマスクス 15 ムアーウィヤ 16 西ゴート
17 トウル・ポワティエ間 18 マワーリー
19 アッバース 20 アブー＝アルアッバース
21 ジズヤ 22 タラス河畔 23 製紙
24 バグダード 25 ハールーン＝アッラシード
26 知恵の館 27 後ウマイヤ 28 コルドバ

イスラーム帝国の解体

750-1258 アッバース朝 (首都: バグダード)

9c 後継者争いや黒人奴隷の反乱で動揺。☆中央アジア: タラス河畔の戦い後、イスラーム化。

⇒各地の総督 (1) が自立。

⇒トルコ人奴隷兵 (2) が台頭。
(エジプト)



(北アフリカ)

1056¹⁶ 朝

17 人国家。

サハラ以南に遠征、

18 王国征服。

12c¹⁹ 朝

イベリア半島へ進出。

☆アリストテレス研究の

20

(⇒西欧のスコラ学)

909⁵ 朝

過激シーア派が建国。

(6 派)

チュニジアで建国。

カリフの称号を使用。

⇒エジプトを征服。

(首都⁷)

☆⁸ 学院。



12c 十字軍が侵入。

12c²¹ 朝

• 22

: 23 人武将。

スンナ派を復興。

1187 十字軍から

イエルサレムを奪回。

9c-³ 朝

アミール
イラン人総督が独立。

中央アジア初のイスラーム王朝。

10c⁴ 朝

トルコ系遊牧民が改宗。

トルコ人初のイスラーム王朝。

932-⁹ 朝 (イラン人)

穏健シーア派 (十二イマーム派) が建国。

946 バグダード入城、大アミールの称号。

⇒¹⁰ (分与地) 制を創設。

1038-¹¹ 朝 (トルコ人)

• ¹² : シル川下流で建国。

1055 バグダード入城、¹³ の称号。

1071 マンジケルトの戦い: 東ローマを破る。

⇒小アジア征服⇒十字軍の侵入を招く。

• マリク=シャー: 全盛期。イクター制整備。

イラン人宰相¹⁴。

☆各地に¹⁵ 学院を創建。

12c イクターの世襲化と内紛で崩壊。

アッバース朝

地方政権として自立。

1258 モンゴルの

²⁴ が侵攻。

11c²⁵ 朝

アム川下流⇒イラン。

13c チンギス=ハンが侵攻。

★ ← モンゴル

★ ← 帝国

トルコ系遊牧民のセルジューク族が都のバグダードに入城した。



アッバース朝
カリフ

カリフ様の権力を奪った
ブワイフ朝を倒せ!



シーア派のブワイフ朝

逃げろ!!



族長トゥグ
リル=ベク

1 2
3 4



アッバース朝
カリフ

よくやった!
トゥグリル。



族長トゥグ
リル=ベク

ご安心を! われら
トルコ人、カリフ
様の味方です。



アッバース朝
カリフ

ほうびを与える。
何が望みか?



族長トゥグ
リル=ベク

政治・軍事の最高
権力をわたくしに



アッバース朝
カリフ

スルタン
の称号



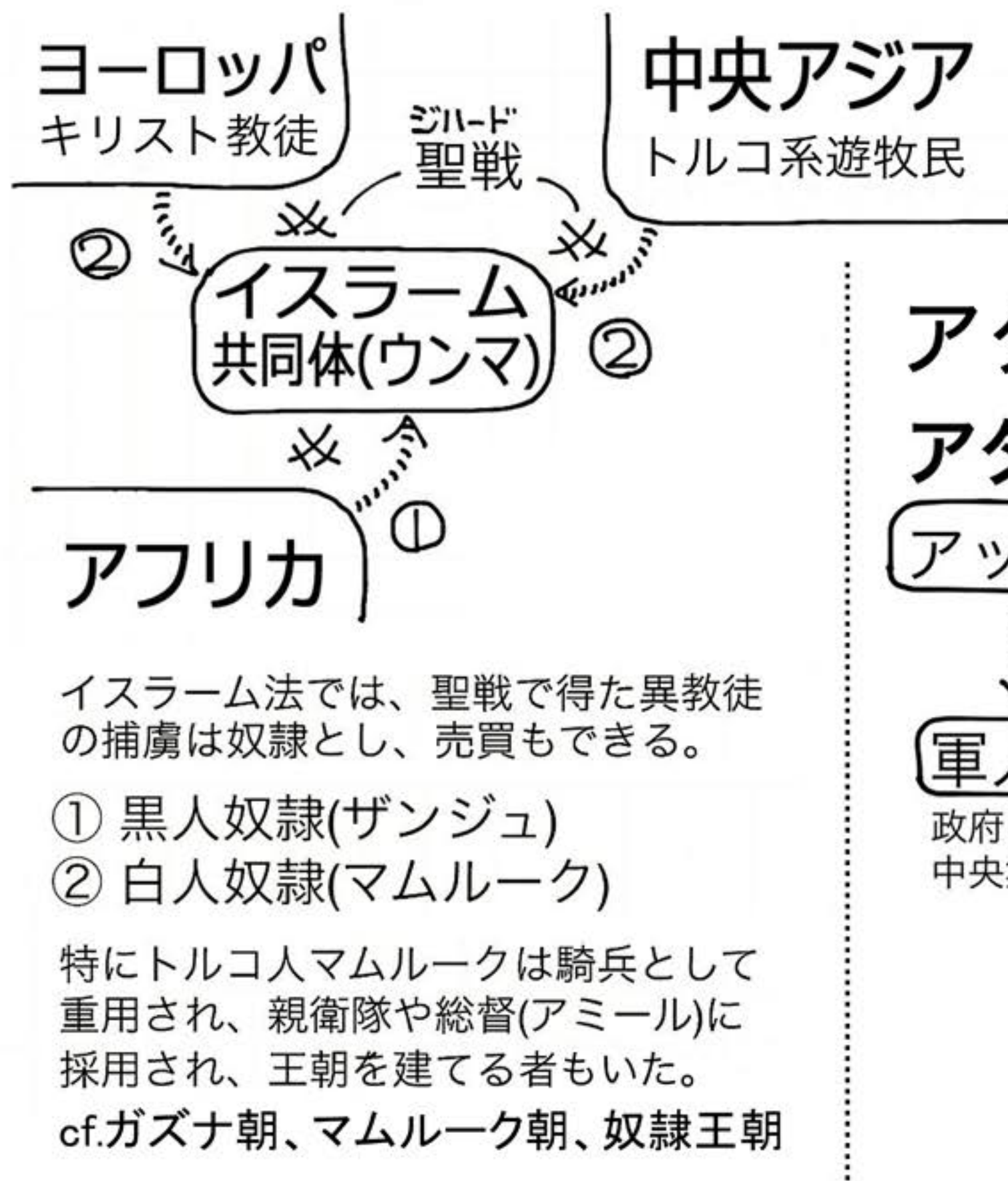
族長トゥグ
リル=ベク

カリフ様の命により
わしが統治する!

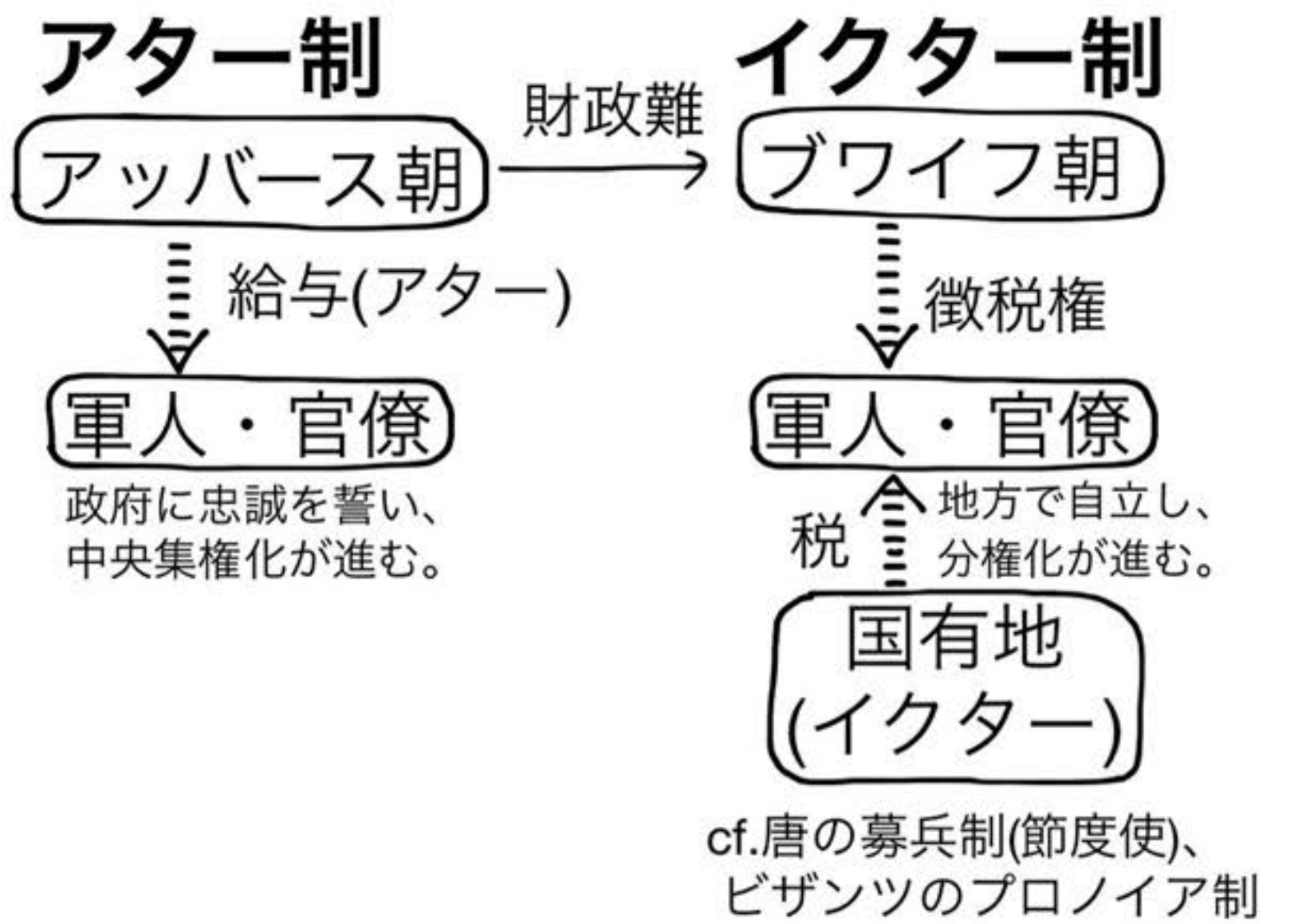
- 1 アミール 2 マムルーク 3 サーマーン
- 4 カラハン 5 ファーティマ 6 イスマーイール
- 7 カイロ 8 アズハル 9 ブワイフ 10 イクター
- 11 セルジューク 12 トゥグリル=ベク 13 スルタン
- 14 ニザーム=アルムルク 15 ニザーミーヤ
- 16 ムラービト 17 ベル=ベル 18 ガーナ
- 19 ムワッヒド 20 イブン=ルシュド 21 アイユーブ
- 22 サラディン (サラーフ=アッディーン)
- 23 クルド 24 フラグ 25 ホラズム

イスラーム世界の奴隷

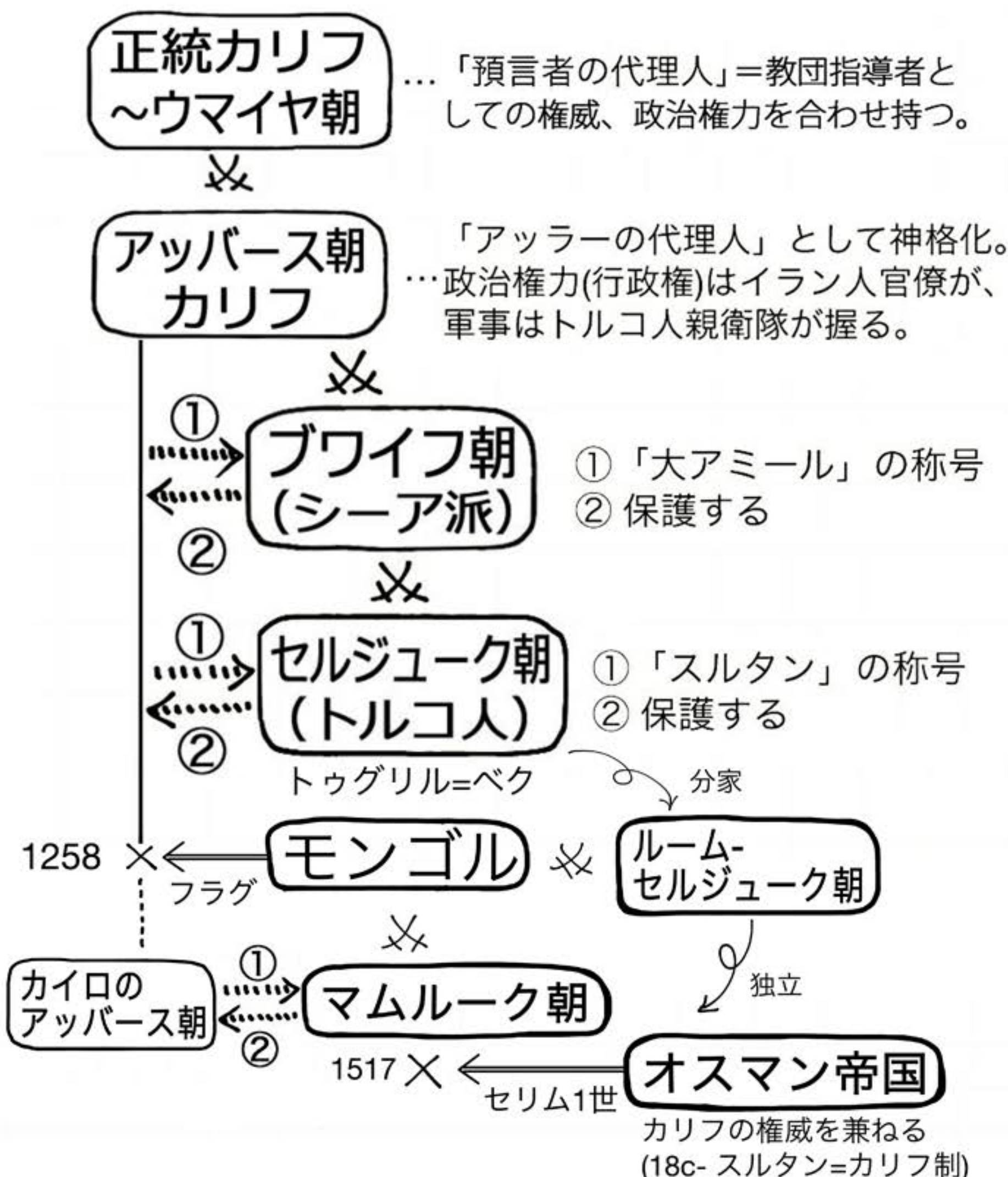
問 イクター制の成立と影響について、それ以前の制度と比較しつつ以下の語句を用いて、90字以内で説明しなさい。
徴税権 ブワイフ朝



アター制とイクター制



イスラームの政治と宗教



古代ローマ

皇帝 最高神祇官
軍の最高司令官

中世の西欧

教皇 戴冠 神の代理人
皇帝 フランク王
ドイツ王

古代の日本

天皇 神道の最高神官
軍の最高司令官

中世の日本

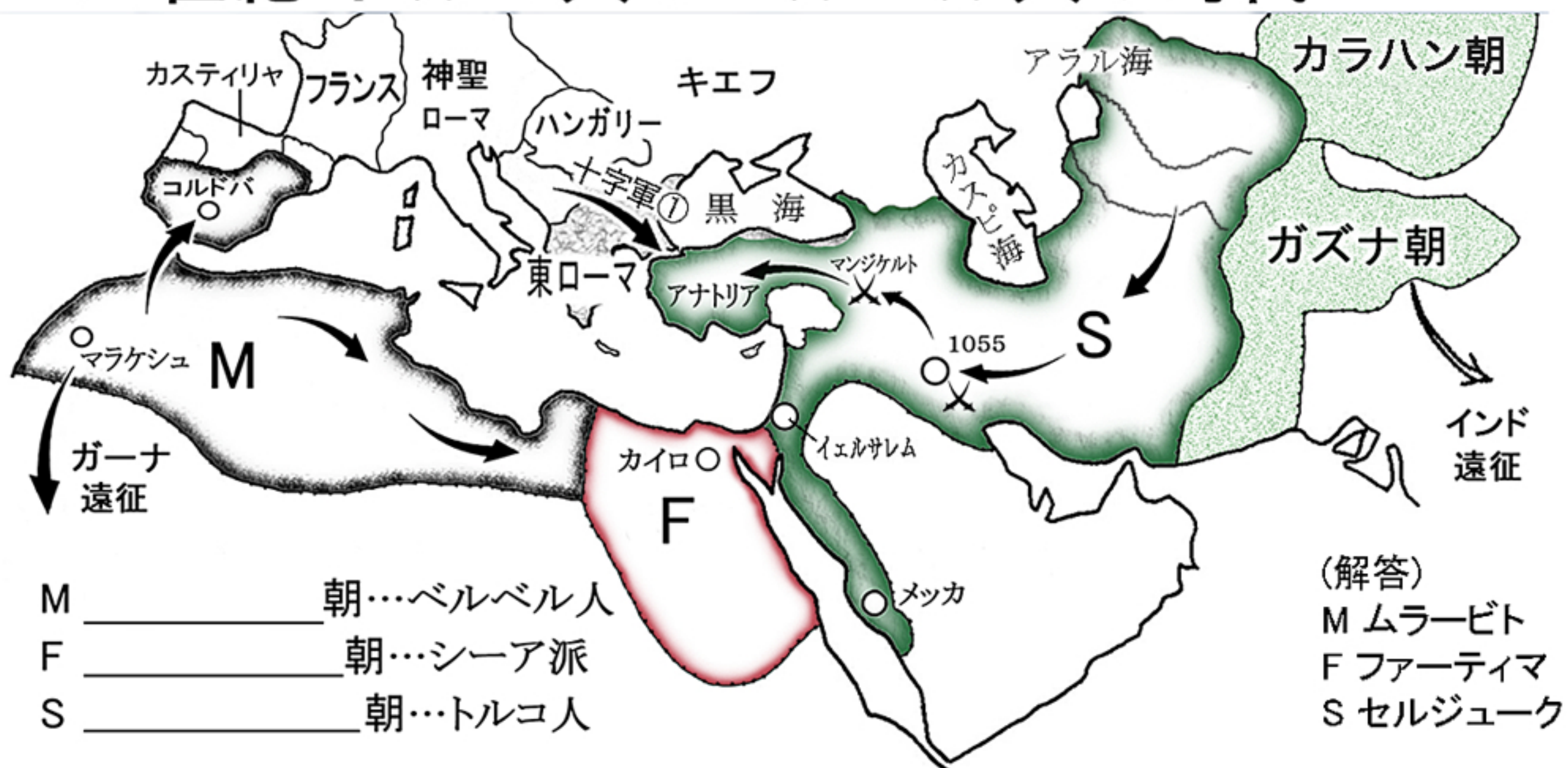
天皇 任命
将軍 武家の棟梁

問 セルジューク朝の統治の特徴について、以下の語句を用いて、90字以内で説明しなさい。
アッバース朝カリフ
イクター制

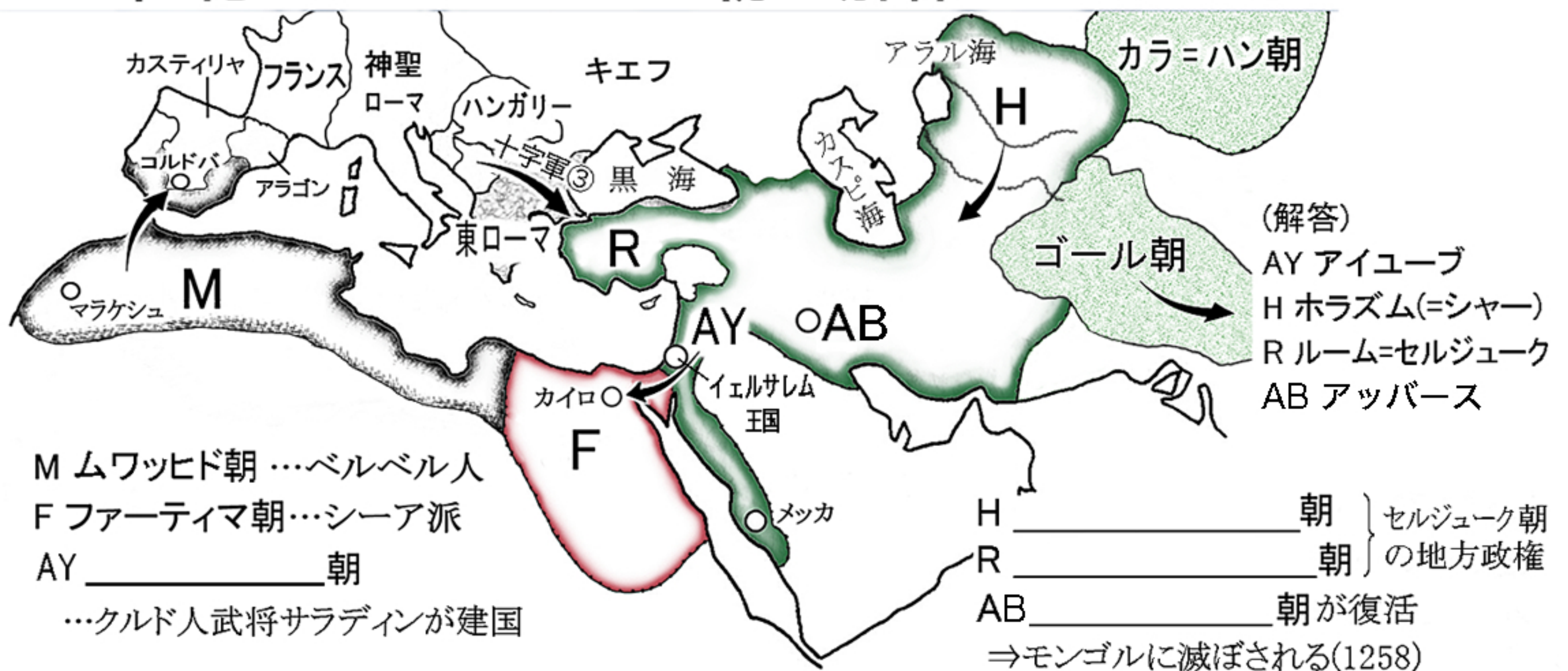
10世紀 シーア派の時代



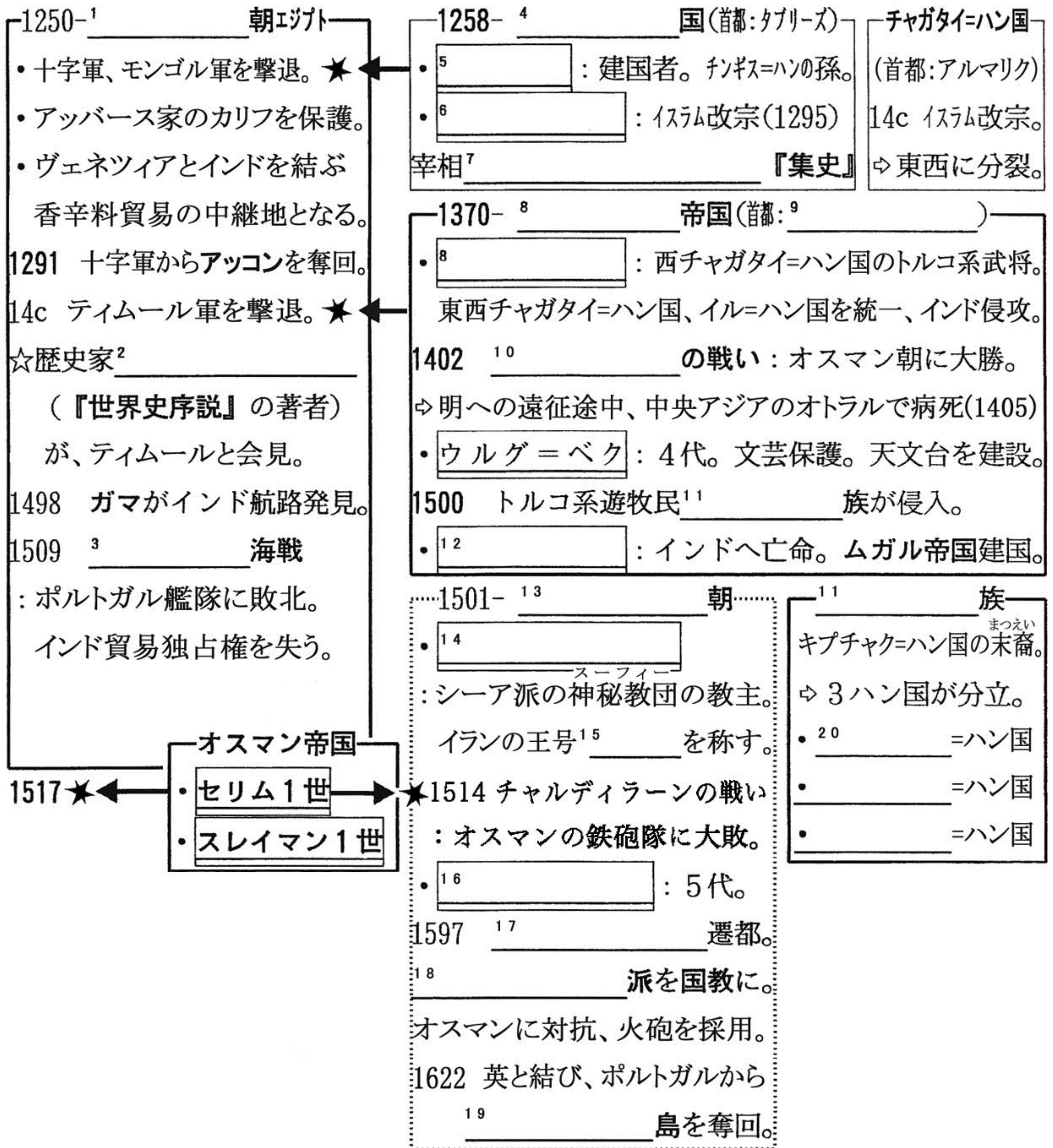
11世紀 トルコ人とベルベル人の時代



12世紀～セルジューク朝の解体



イル=ハン国～サファヴィー朝



イル=ハン国～サファヴィー朝

- ¹ マムルーク
- ² イブン=ハルドゥーン
- ³ ディウ沖
- ⁴ イル=ハン
- ⁵ フラグ
- ⁶ ガザン=ハン
- ⁷ ラシード=ウッディーン

⁸ ティムール

- ⁹ サマルカンド
- ¹⁰ アンカラ
- ¹¹ ウズベク
- ¹² バーブル
- ¹³ サファヴィー
- ¹⁴ イスマーイール1世
- ¹⁵ シャー

¹⁶ アッバース1世

- ¹⁷ イスファハーン
- ¹⁸ 十二イマーム
- ¹⁹ ホルムズ ×ホラズム
- ²⁰ ヒヴァ・ブハラ
- ・コーカンド



(モンゴル帝国)
チンギス=ハン

モンゴル・ティムール ・ムガル帝国系図

(チャガタイ=ハン国)
チャガタイ



(ティムール帝国)
ティムール

(イル=ハン国)
フラグ



ガザン=ハン



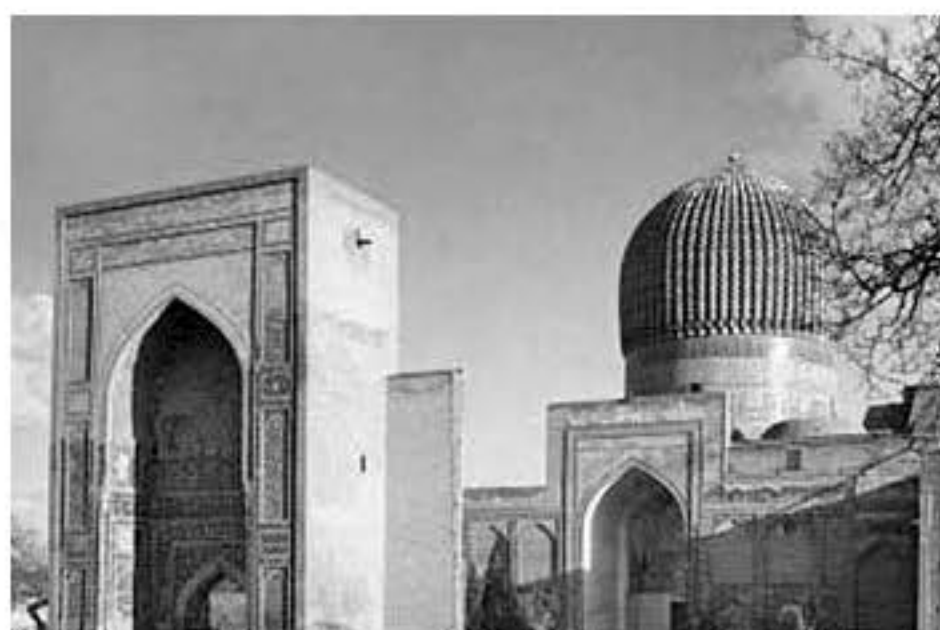
(ムガル帝国)
バーブル



アクバル

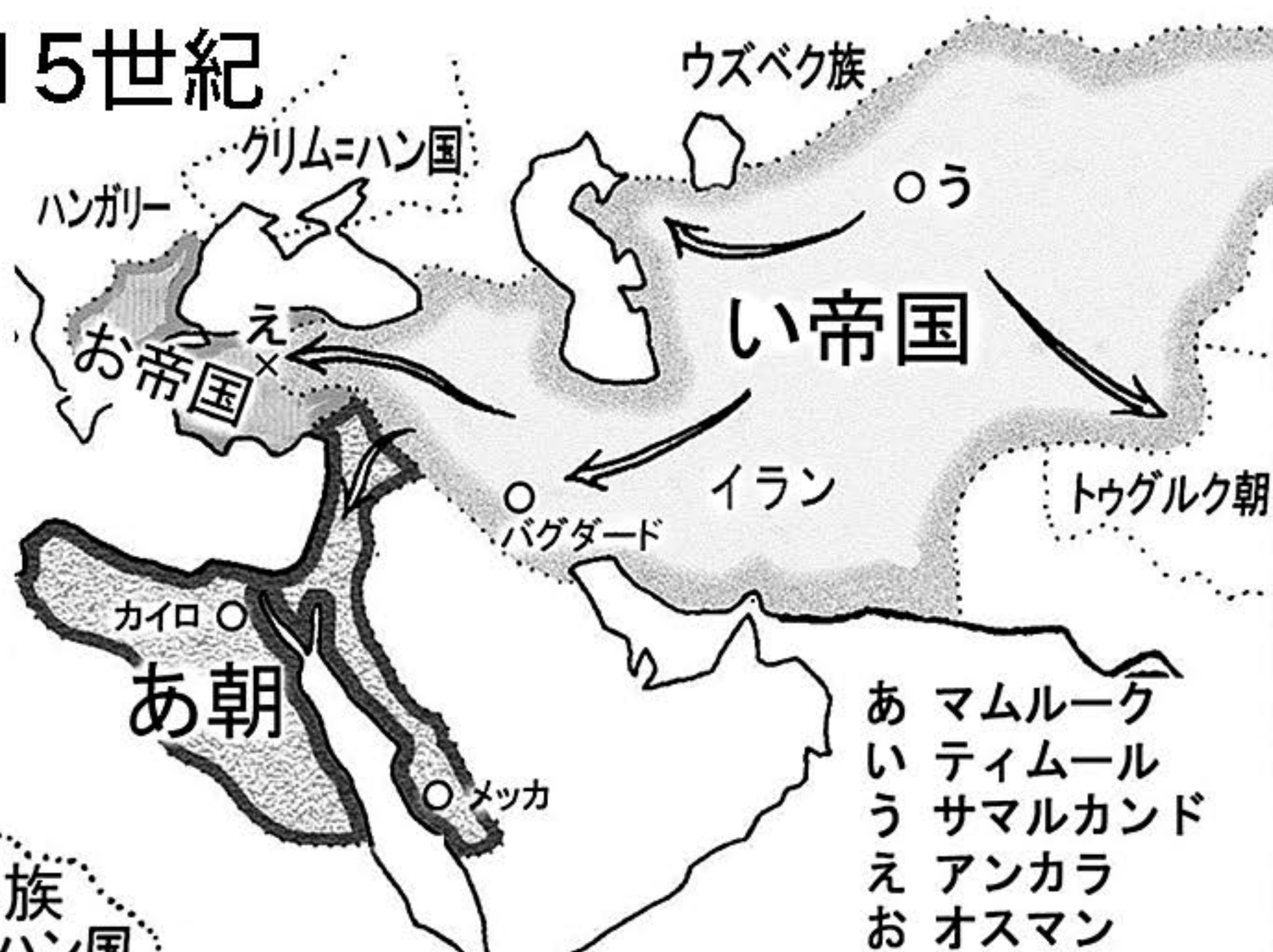


モンゴル帝国の解体後も、チンギス=ハンの男系子孫だけが、ユーラシア諸国家の正統な君主とされた(チンギス統原理)。ティムールは、チンギスの男系子孫ではないのでハンになれず、チャガタイ家の王女と結婚して婿入りし、「婿総督」と称した。ティムール家の子孫であるムガル帝国皇帝も「ハン」を名乗らず、「パーディシャー」(ペルシア語で「大王」)と称した。

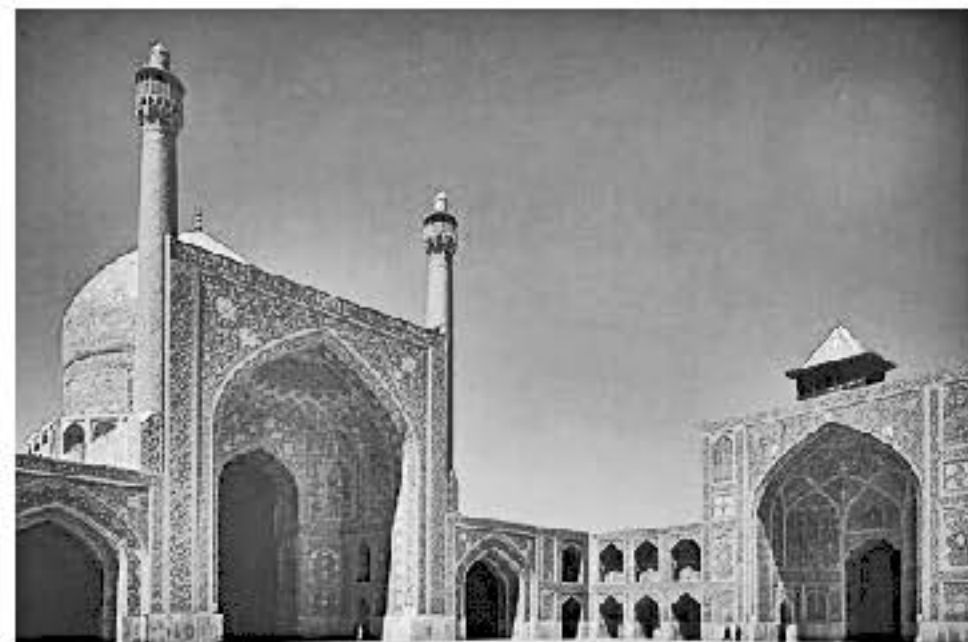


▲ ティムール廟(サマルカンド)

15世紀



16世紀



▲イマームのモスク(イスファハーン)

イスラーム文化

☆¹_____ : 大学。法学者(²_____)の育成を主とし、文学や自然科学も教授。

⇒ファーティマ朝の³_____大学、セルジューク朝の⁴_____学院。

☆固有の学問:『コーラン』研究から生まれた神学・法学・歴史学・文学。

①神学:イスラーム法(⁵_____)の研究。

・⁶_____ : ニザーミーヤ学院教授。ギリシア哲学で神学を体系化。のち神秘主義^{スーフィズム}へ。

②歴史

・タバリ:『預言者と諸王の歴史』。天地創造から異教徒の時代、アッバース朝までの歴史。

・⁷_____ : 『⁸_____ (王書)』は、ササン朝滅亡までのイラン建国叙事詩。

・⁹_____ : 『¹⁰_____』は、ペルシア語で書かれたモンゴル史(ガザン=ハンまで)

・¹¹_____ : 『¹²_____ (イバルの書)』(1377)は、都市と遊牧民の関係から、歴史法則を説く。マムルーク朝の大法官。ティムールと会見。

③文学:文学者の多くはイラン人。

・¹³_____ : ペルシア語の四行詩集『¹⁴_____』。酒と恋と人生の虚無。
天文学者としてセルジューク朝に仕え、「ジャラーリ暦」を作成。

・¹⁵_____ : ペルシア語の教訓詩『バラ園(ゴレスターン)』。イル=ハン国時代、各地を放浪。

・『千夜一夜物語』:イランを中心にアラブ、インドの説話を集成。マムルーク朝時代に完成。

☆外来の学問:バグダードの「¹⁶_____」で、ギリシア語文献をアラビア語に翻訳(9c)。

④哲学・医学:アリストテレス哲学、ヒッポクラテスやガレノスの医学が伝わる。

・¹⁷_____ : 『医学典範』でアラビア医学を集成(⇒中世西欧で医学の最高権威に)
『治癒の書』は哲学を含む百科全書。サーマーン朝、ブワイフ朝に仕える。

・¹⁸_____ : コルドバの大哲学者。アリストテレスの注釈(⇒中世西欧のスコラ学)
ムワッヒド朝に仕え、医学者としては『医学大全』を著す。

⑤数学:インドから数字とゼロの観念が伝わる。

・¹⁹_____ : イラン系数学者。『微積分と方程式の計算法(ジャブルの書)』(^{アルジェブラ}⇒代数学)

⑥地理学

・イブン=ファドラーン:『ヴォルガ・ブルガール紀行』は、10世紀の南ロシアに関する重要史料。

・²⁰_____ : モロッコ出身。『²¹_____』(1355)は、14世紀の重要史料。
インドのトウグルク朝、中国の元朝、西アフリカのマリ王国の記録を含む。

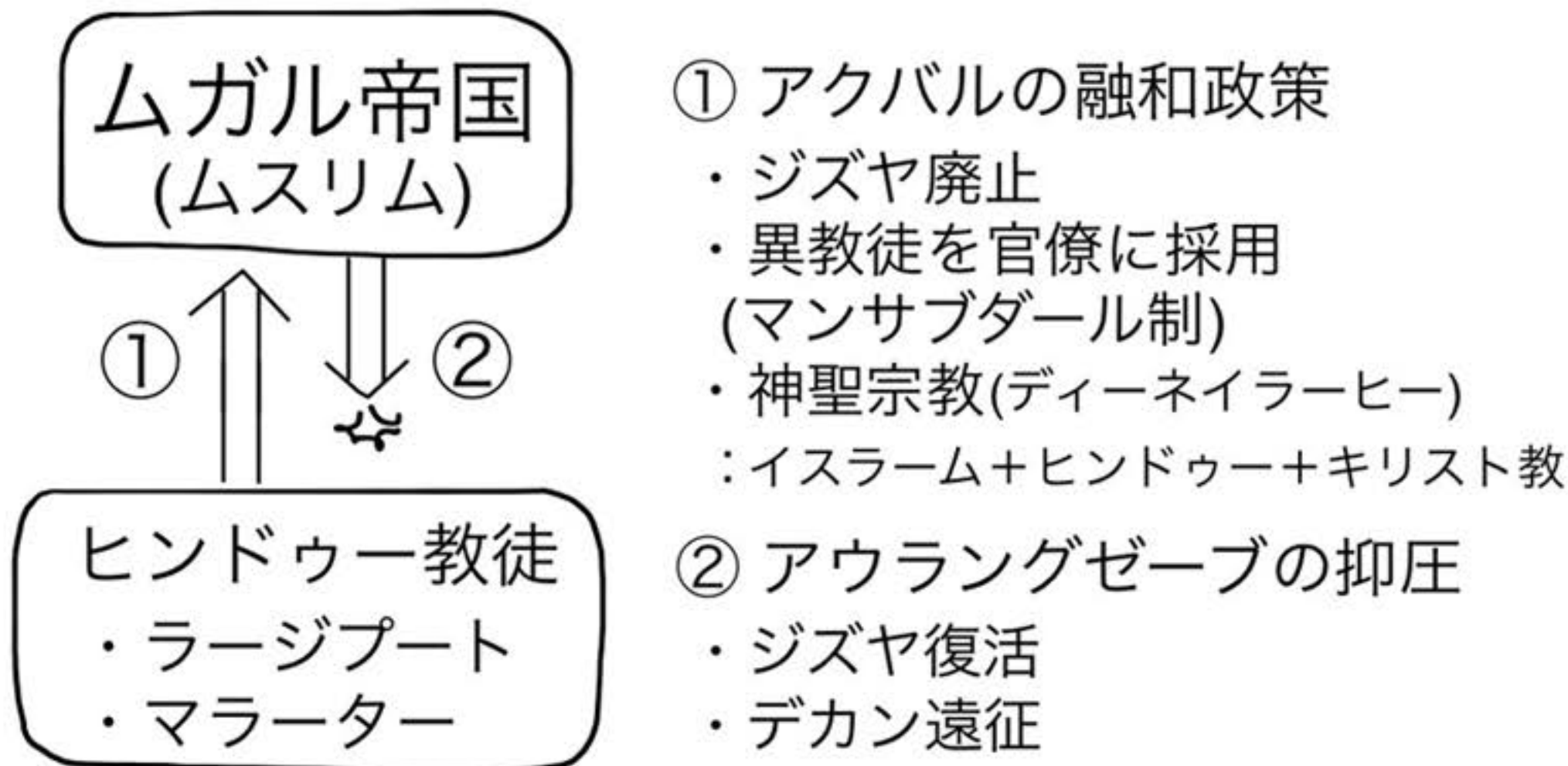
¹マドラサ ²ウラマー ³アズハル ⁴ニザーミーヤ ⁵シャリーヤ ⁶ガザーリー ⁷フィルドゥシー ⁸シャー=ナーメ

⁹ラシード=アッディーン ¹⁰集史 ¹¹イブン=ハルドゥーン ¹²世界史序説 ¹³ウマル=ハイヤーム ¹⁴ルバイヤート

¹⁵サーディー ¹⁶知恵の館 ¹⁷イブン=シーナー ¹⁸イブン=ルシュド ¹⁹フワーリズミー ²⁰イブン=バットウータ

²¹三大陸周遊記(旅行記)

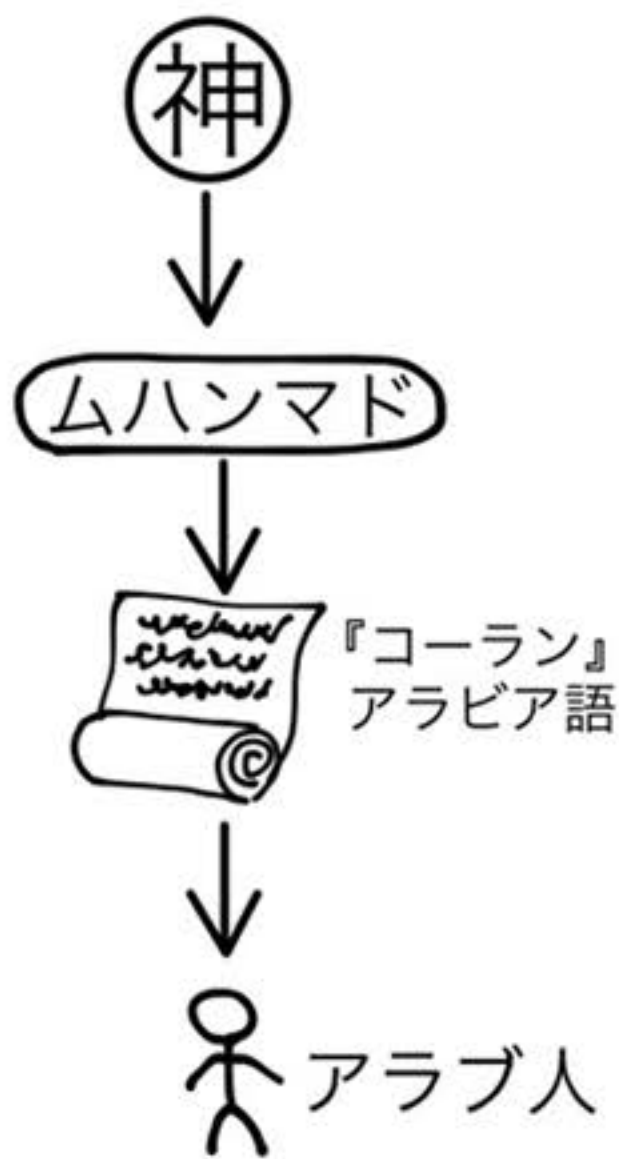
ムガル帝国の構造



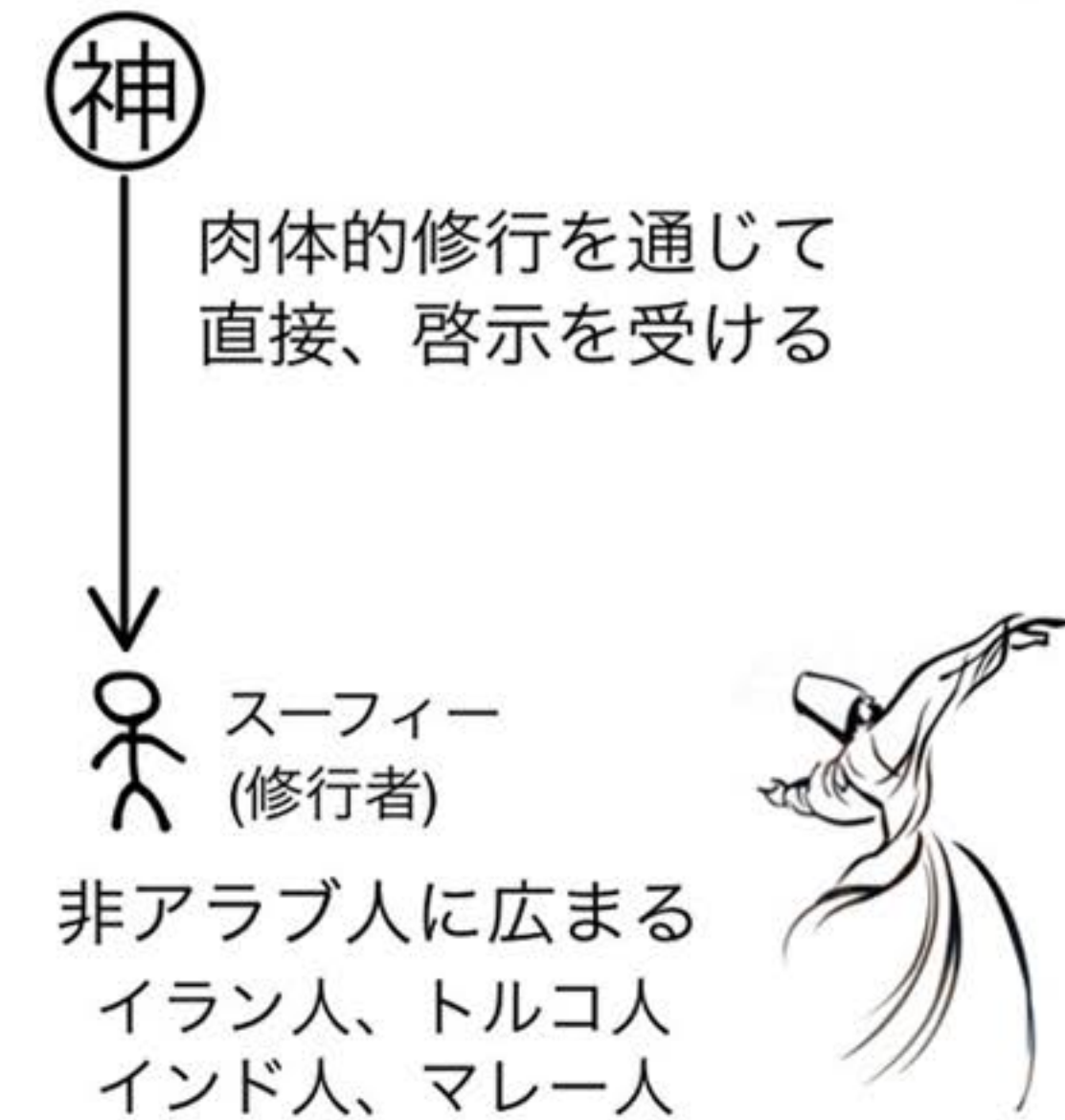
問 インドのイスラーム化について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
 ゴール朝 ラージプート アイバク シク教

問 ムガル帝国の宗教政策について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
 神聖宗教 タージ=マハル Ауラングゼーブ

スンナ派



スーフィズム(神秘主義)

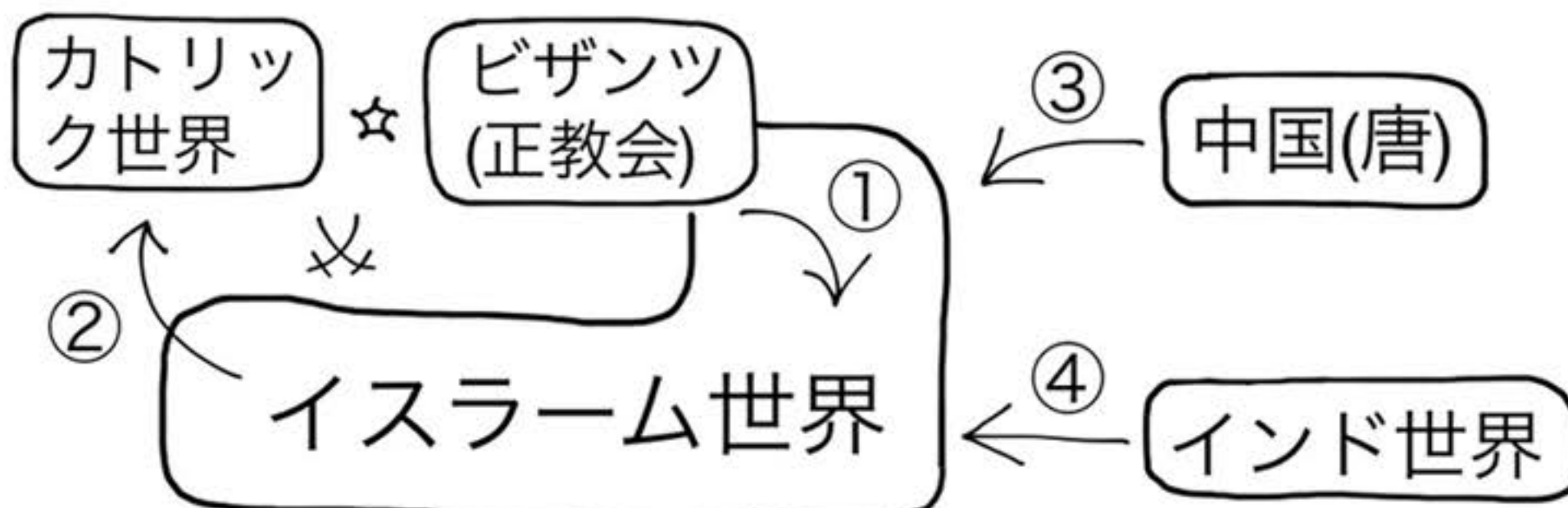


問 スーフィズムについて、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
 聖典 修行 聖者崇拜



ウマル=ハイヤーム

恋する者と酒のみは地獄に行くと言う
 根も葉もない、たわごとにしすぎぬ
 恋する者や酒のみが地獄に落ちたら
 天国は人影もなくさびれよう！
 (『ルバイヤート』)



- ① ギリシア哲学・幾何学・医学
 ⇒バグダードの「知恵の館」
 (ギリシア語⇒アラビア語)
- ② イベリア半島のトレド
 (アラビア語⇒ラテン語)
 ⇒12世紀ルネサンス

- ③ 製紙法
- ④ 数字・代数学
 ゼロの観念

問 イスラーム世界におけるギリシア哲学の受容と、他の文化圏への影響について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
 知恵の館 ガザーリー コルドバ 『神学大全』

インドのイスラーム化

サーマーン朝 (アフガニスタン)

7c ヴァルダナ朝崩壊：分裂時代へ。

962-² 朝

- ・アルプテギン：マムルーク出身。サーマーン朝から独立。
- ・マフムード：インド遠征を繰り返す。

☆フィルドウシー『³ (王の書)』
：イラン建国叙事詩。神話時代～ササン朝。

1 族 パーラ朝

- ・クシャトリヤ階級出身
- ・ベンガルの仏教国。
- ・吐蕃に密教を伝える。
- ・36氏族の小国分立。
- ・ヴィクラマシラー僧院。
- ・エローラ石窟寺院。
- ・(1204 ゴール朝が破壊)

1148-⁴ 朝

- ・イラン系の豪族。北インドを征服。

チョーラ朝

- ・南インドの
- ・タミル人国家。
- ・スリランカ侵入。

ホラズム朝

1206-⁵ 朝(首都：デリー)

- ・北インドを支配した5つのイスラーム王朝。

①⁶ 王朝：アイバクがゴール朝から独立。

②⁷ 朝：モンゴル軍を撃退。南インド遠征。

③⁸ 朝：ティムール軍の侵入で崩壊。

④⁹ 朝：ティムール軍の武将が独立。

⑤¹⁰ 朝：イラン系アフガンが建国。

11 王国

1336- 南インドのヒンドゥー系4王朝。

1405 明の鄭和が来航。

1498 ヴァスコダガマが来航。

1510 ポルトガル人がゴアを占領。

イル＝ハン国

ティムール帝国

ウズベク族

1526-¹² 帝国(首都：デリー→アグラ→デリー)

- ・¹³ : ティムール家の5代目。

1526 パニーパットの戦い：ロディー朝を滅ぼす。

- ・¹⁴ : 3代。¹⁵ 遷都。

- ・異教徒税¹⁶ を廃止。宗教融和。
- ・官僚制度の整備。位階と軍役を定め、これに応じて給与地を支給(ジャイクター制)

☆¹⁷ 語：北インドの口語+アラビア語。

☆ヒンドゥーの帰依信仰+イスラーム神秘主義。

☆¹⁸ 教：16c初、ナーナクが開いた一神教。偶像・カーストを否定。パンジャブ地方に広まる。

- ・¹⁹ : 5代。文化の全盛。

☆王妃のための霊廟²⁰ を建設。

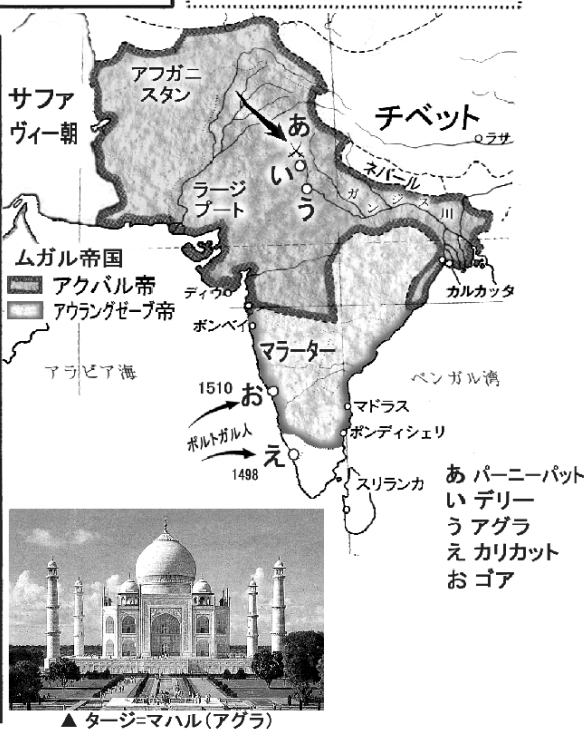
- ・²¹ : 6代。不寛容政策。

1679 異教徒税¹⁶ 復活。

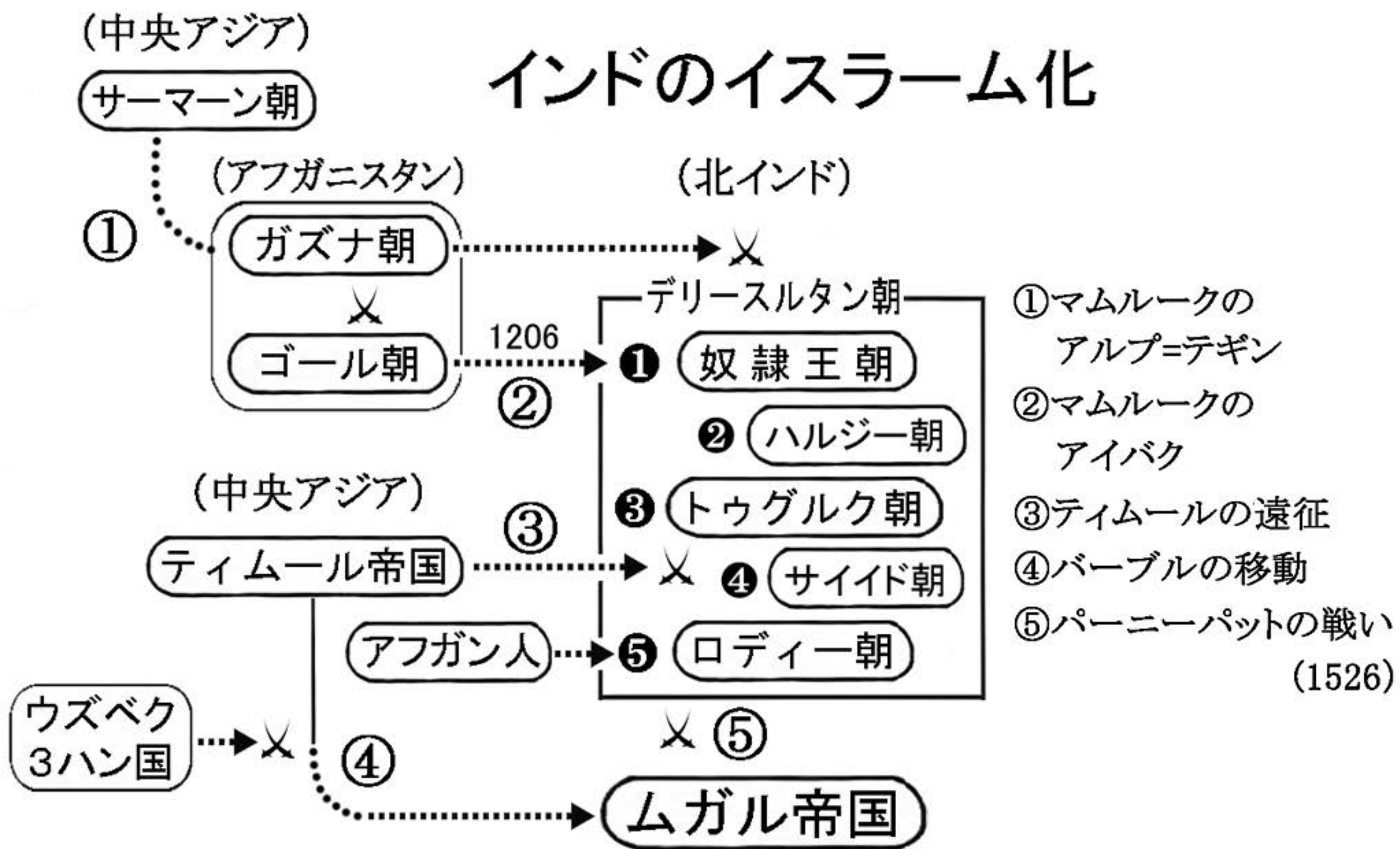
1674-²² 王国

☆ヒンドゥー教徒・シ教徒が反乱。★デカン高原のアーリヤ系ヒンドゥー教徒。

- ・シヴァージー：ムガルから独立。



インドのイスラーム化



インド=イスラーム文化

(宗教)

イスラーム
神秘主義
(スーフィズム)

カビール教団

ナーナクの
シク教

ヒンドウーの
バクティ信仰



- ・一神教、偶像禁止
- ・カースト否定、輪廻転生
- ・パンジャープに教団国家を建設

(言語)

アラビア語
ペルシア語

جستجوی صفحات
بخشی از خدمات متنوع
پارسی جو را صف

ウルドゥー語

اُردو برصغیر کی
لگ بھگ شروع ہو
ایک ہند-آریائی زبان

北インドの
ヒンディー語

हिन्दी और इसकी बोलियाँ
बोली जाती हैं। भारत और
बोलते, पढ़ते और लिखते हैं

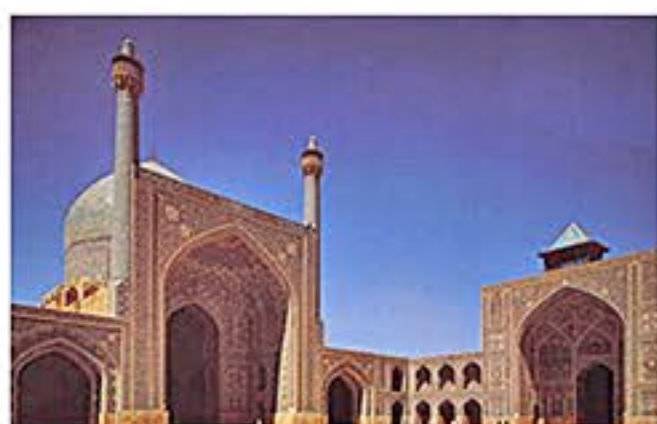
(建築)

イスラーム
の礼拝堂
(モスク)

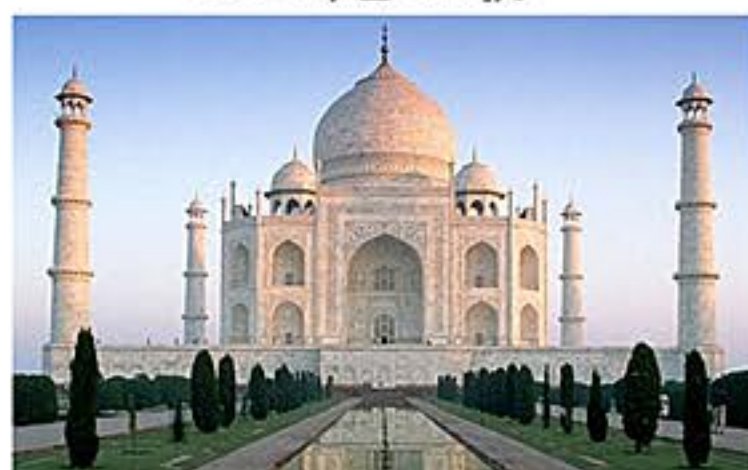
タージ=マハル

5代シャー=ジャハーン
の王妃の廟

ヒンドウーの
聖者の廟



▲ イマームのモスク



インドのイスラーム化

- 1 ラージプート
- 2 ガズナ
- 3 シャー=ナーメ
- 4 ゴール
- 5 デリー=スルタン
- 6 奴隷
- 7 ハルジー
- 8 トウグルク
- 9 サイド
- 10 ロディー
- 11 ヴィジャヤナガル
- 12 ムガル
- 13 バーブル
- 14 アクバル
- 15 アグラ
- 16 ジズヤ
- 17 ウルドゥー
- 18 シク
- 19 シャー=ジャハーン
- 20 タージ=マハル
- 21 アウラングゼーブ
- 22 マラーター

オスマン帝国

1077- ¹ 朝 (首都: コンヤ)

- ・セルジューク朝の分家。小アジアをイスラム化。13c イル=ハン国に服属、解体。

1299- オスマン帝国 (首都: ブルサ⇨アドリアノーブル⇨イスタンブル)

- ・² : 初代君主。小アジア北西部で独立。ブルサを首都に。
- ・ムラト1世³ : 3代。バルカン侵攻、東ローマの³ を攻略(1362)。

1389 コソヴォの戦い: セルビア王国を征服⇨イスラム教徒のアルバニア人が入植。

☆⁴ 制: 軍事封土制。騎士に徴税権を付与。裁判権なし。(⇨イクター制)

☆⁵ (新軍): 常備歩兵軍団。キリスト教徒の少年^{デウシルメ}を徴用。火砲を配備。

☆イスラム法と世俗法(スルタンの法)。イスラム^{シヤリーア}法学者を郡の裁判官に任命。

☆⁶ : キリスト教徒・ユダヤ教徒の自治共同体。徴税を請け負わせる。

- ・⁷ : 4代。1396 ニコポリスの戦い: ハンガリー王の十字軍を撃退。

1402 ⁸ の戦い: ティムールに敗北、捕虜になる。

- ・⁹ : 7代“征服者”。1453 ¹⁰ 攻略: 東ローマ滅亡。

⇨¹¹ と改称、遷都。1475 黒海北岸の¹² 国を属国化。

- ・¹³ : 9代。1517 マムルーク朝征服⇨¹⁴ 制の起源。

- ・¹⁵ : 10代(1520-)“立法者”“壮麗者”オスマン帝国最盛期。

1522 ロードス島攻略: ヨハネ騎士団を破り、地中海の制海権(⇨騎士団はマルタ島へ)

1526 モハーチの戦い: オスマン軍がドナウ渡河。ハンガリー王国を征服。(〜1699)

1529 第1次¹⁶ : 墺ハプスブルク家(カール5世)と戦う。寒気到来で撤退。

⇨仏に¹⁷ (治外法権、免税特権)。のち英・蘭にも(⇨不平等条約)

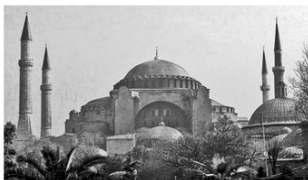
1538 ¹⁸ の海戦: ヴェネツィア・スペイン⇨ハプスブルク家・教皇の連合艦隊を破る。

☆¹⁹ : オスマン建築の代表。ビザンツの^{ハギア}聖ソフィア聖堂の影響。

- ・セリム2世²⁰ : 11代。キプロス島占領。

1571 ²⁰ の海戦

: ヴェネツィア・スペイン・教皇に敗北。

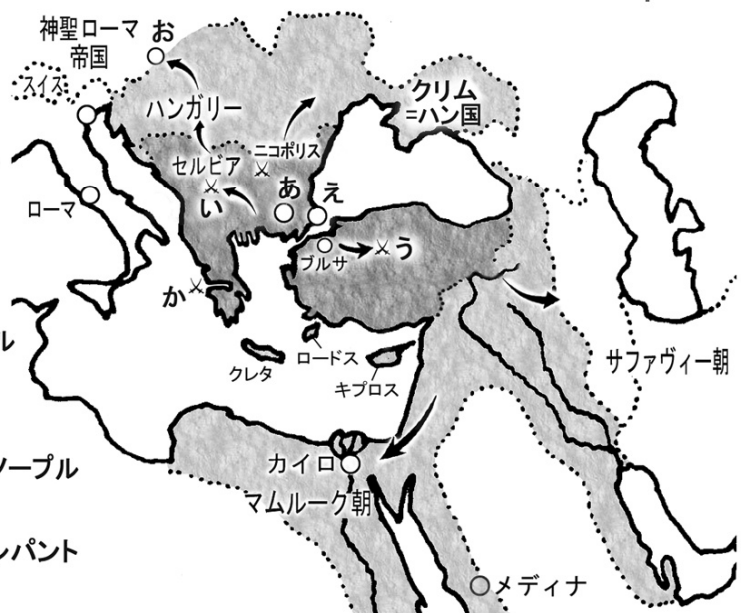


▲ ハギア=ソフィア聖堂

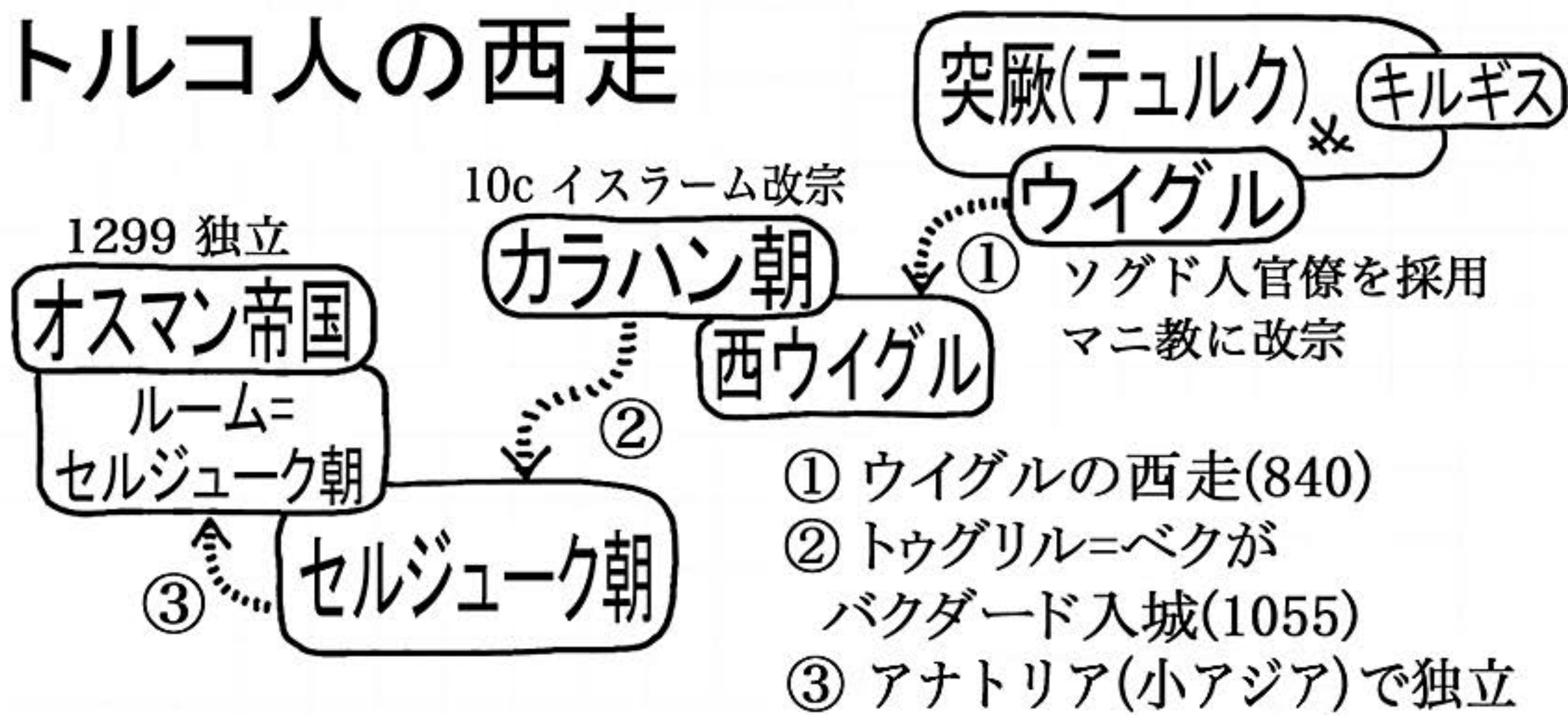


▲ スレイマン=モスク

あ アドリアノーブル
い コソヴォ
う アンカラ
え コンスタンティノーブル
お ウィーン
か プレヴェザ、レパント

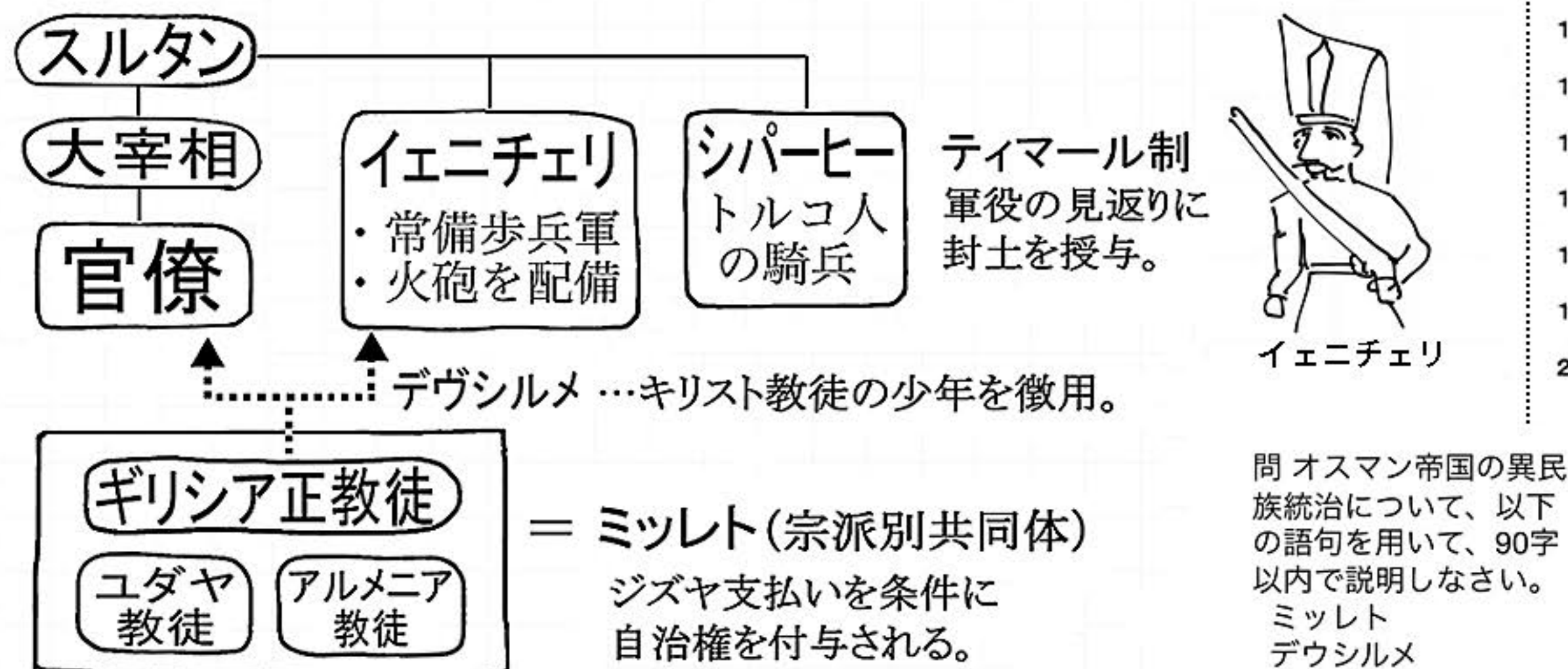


トルコ人の西走

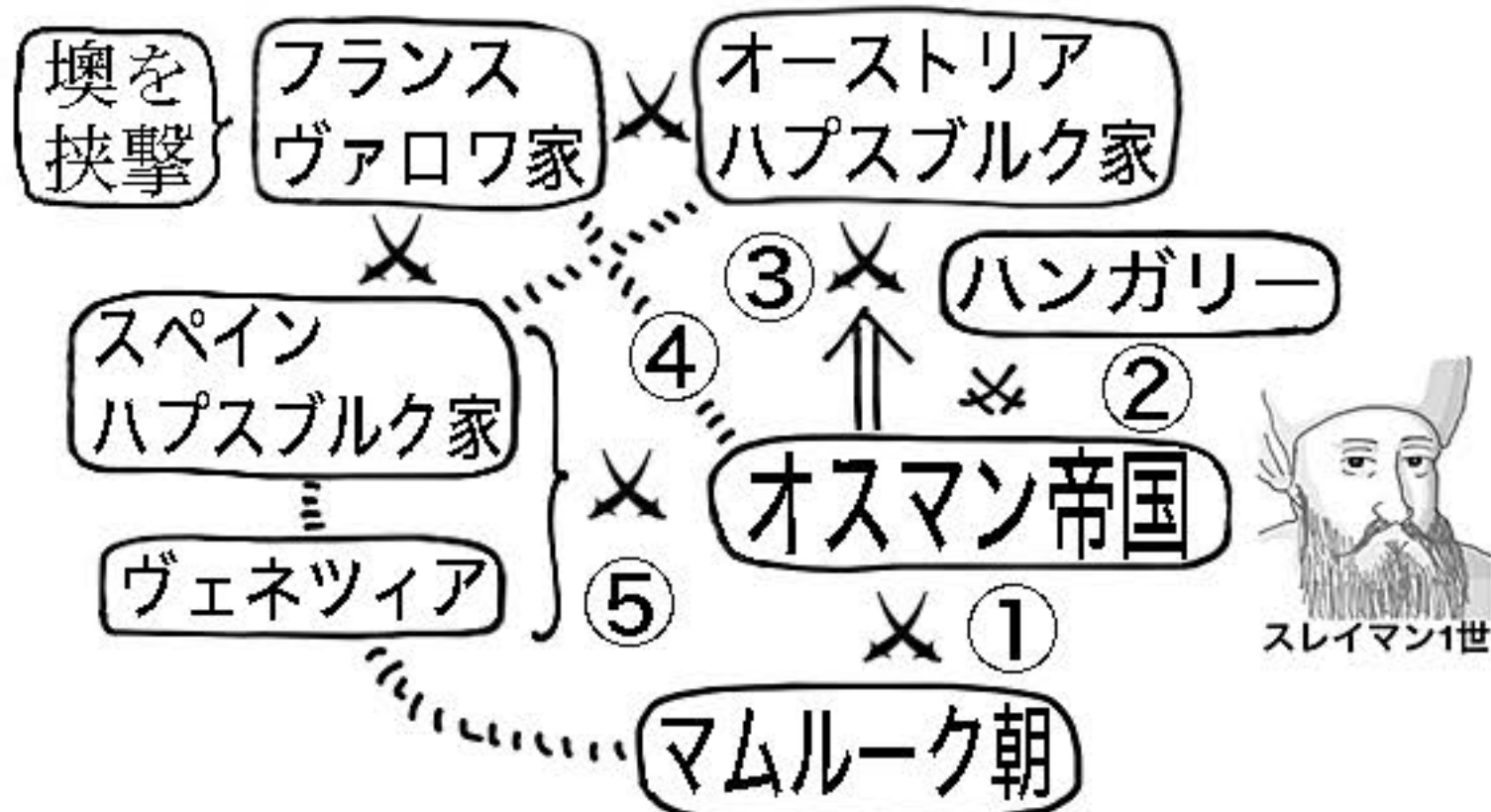


- オスマン帝国
- 1 ルーム=セルジューク
 - 2 オスマン1世 (オスマン=ベイ)
 - 3 アドリアノーブル
 - 4 ティマール
 - 5 イェニチェリ
 - 6 ミット
 - 7 バヤジット1世
 - 8 アンカラ
 - 9 メフメト2世
 - 10 コンスタンティノーブル
 - 11 イスタンブル
 - 12 クリム=ハン
 - 13 セリム1世
 - 14 スルタン=カリフ
 - 15 スレイマン1世
 - 16 ウィーン包囲
 - 17 カピチュレーション
 - 18 プレヴェザ
 - 19 スレイマン=モスク
 - 20 レパント

オスマン帝国の構造



16世紀 オスマン帝国の拡大



- ① セリム1世がエジプト征服 (1517)
 - ② モハーチの戦い(1526)
 - ③ 第1次ウィーン包囲(1529)
 - ④ カピチュレーションを付与
…免税特権、治外法権
 - ⑤ プレヴェザの海戦(1538)…スレイマン1世
レパントの海戦(1571)
- スレイマン1世